
ぼけもん～白と黒って混ぜたら灰色？～

キシ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ぼけもん〜白と黒って混ぜたら灰色？〜

【コード】

N0333H

【作者名】

キシ

【あらすじ】

本編「ポケットモンスター〜白と黒の想い〜」の元ネタやらなんやらを書いていきます番外編とか

もとねた(前書き)

前書きは死んだ！今回は無い！だけど、ゴフ！

アカネ「他のネタは自粛なさい！

クロノ「まあ本文が前書きであり後書きだからな」

それ、その通り！

クリアス「銀の翼に望みを・・・ゴフ！」

アカネ「だから、外のネタは自粛なさい！」

クリアス&作者「で、では本文どうぞ」

もとねた

> i2258 — 375 <

どうも、キシと申します。

クロノ

「どーも」

アカネ

「やっほーアカネだよ。」

クリアス

「どうもクロノ様の騎士クリアスです。」

はい。一回目のぽけもん灰色始まりました。

クリアス

「恐らく大半の読者は求めていない企画だったと思われる。よって第1回にて完結する事をお勧めする。」

だまれ。

この『ぽけもん』白と黒って混ぜると灰色』は主にキャララのプロフィールやら、本編では書けなかったサブストーリーを書いていくつもりです。第1回目は本編『ポケットモンスター』白と黒の想い』の元ネタについて、メインキャラ達とトークを繰り広げようかなど。

クロノ

「元ネタなんてあったのか？」

失敬な！元ネタというか、雛型ぐらいはあるわ！

アカネ

「どん内容だったの？」

ストーリーとしてはGBAポケモンがベースで、ファイヤ・リーフで一部。ルビサファエメラルドで一部。ダイパで一部。ミックスで最終話の計四部構成。

クロノ

「金銀は？」

やったことないから、書かない。だから本編でもジョウト地方はそこまで濃い内容にはならないと思う。

アカネ

「うわぁ……………」

クリアス

「一番売れていた作品だったはずだが？」

うるへー。金銀発売当初は作者が一番忙しかった時期なんだよ！やりたくてもやれなかったんだよ！

アカネ

「分かったから、話続けなよ」

はい。で各地方で主人公が違うのよ。あ、各話にはそれぞれ、フアイヤ、リーフには

「マテリアルエディション」。ルビサファエメラルドには

「ジュエルエディション」。ダイパには

「ジェリーエディション」て名前があるのよ

クロノ

「うわぁ、名前が痛い……………」

う、昔の話だからしょうがないんだよぉ〜で、ジュエルエディションの主人公達が君たちの（クリアス以外）元ネタ

クロノ

「ほぉー」

アカネ

「やっりい」

クリアス

「……………作者。私のこと嫌いだろ？」

いやいや。クリアスは急遽作ったキャラだから雛型にいないのはしょうがない。それにクリアスは別の元ネタはあるから。

クリアス

「どんな元ネタ？」

クリアスの騎士キャラというか従者キャラは某大作RPGのキャラがもと。

クロノ

「で、俺らは？」

はいはい。で、ジュエルエディションの主人公達の名前が、ソラネ、アカネ、カイト。

お分かりのとおりアカネはそのまんま。

アカネ

「ほんとまんまだの」

でも、設定は違うんだよ。元ネタアカネはポケモンと話せたり、主人公の幼なじみだったり。何よりグラードンの巫女って設定があったのよ

クロノ

「俺は誰なんだ？」

クロノはソラネってキャラ。クロノと違うのはソラネの年齢が21歳だったり、研究者の卵、レックウザの巫女。クロノに残った設定は大富豪の御曹子でアルトマーレの出身とどこかな？

因みにカイトは名前だけ採用。設定は完全にボツ。

クリアス

「さっきから巫女って単語を聞くのだが、どういった設定とお考えで？」

巫女ってのは、伝ポケと心を通わせたり、話せたりといろいろ痛い設定があった。

クロノ

「へえ、痛いけど色々考えてたんだな」

アカネ

「ねえ、作者。何でもアルトマーレの設定はハブかなかったの？」

ああ。それ聞く。実はアルトマーレってか、劇場版ポケモン水の都の守り神は作者にとってもう一度ポケモンに目覚めさせた作品だったから、アルトマーレの設定だけは何がなんでも残したかったわけよ。だから、ポケモン白黒には劇場版ポケモンの設定が多い。したがって劇場版ポケモンを見ていただくとイメージが掴みやすいかも

クロノ

「へー。思い入れが強いわけだ」

アカネ

「実際綺麗だったしね」

クリアス

「私も一度行ってみたい」

アカネ

「色々かたがついたらまた、みんなで行こうよ」

クロノ

「かたがついたらな……」

まあ、今回は今回こんなもんで。

今回はキャラ紹介。一回目はクロノの紹介ね

クロノ

「おう！楽しみにしててくれ」

一同

「ではまた次回」

後書きはないよ？

しょうかい〜クロノ編〜

どうもキシです

クロノ

「クロノです」

アカネ

「アカネです」

クリアス

「クリアスです」

はい二回目。予告通りにキャラ紹介。今回はクロノ編！

クロノ

「プロフィールやら手持ちポケモンなんかの紹介だな。」

アカネ

「あと、本部では書かれてない衣装とか髪の色とかも紹介！」

クリアス

「設定好きな作者のしそうな事だ」

だまれクリアス。出番なくすぞ。

ではクロノのプロフィールどうぞ。

それと、裏切りの黒と虹に憧れる者達のプロフィールも追加しました

クロノ⇨ウイールアス

性別⇨男

年齢⇨16歳(裏切りの黒・19歳 虹に憧れる者達・34歳)

出身地⇨アルトマーレ

家族⇨現在3人

所有ポケモン⇨12匹

プロフィール

ウイールアスコーポレーションの社長、ケルア⇨ウイールアスの次男。

子供の頃から何かと故兄のカイトと比較され自らの実力を親に認めて貰えなかった。

兄のカイトや執事のセバス、使用人達は努力したクロノを認めており、クロノとつて両親よりも大切な存在であり、自分の大切な居場所である。

しかし、グラードンが目覚め、危機に陥ったさい、ケルアに助けられる。その後、病院でケルアの真意を知り、家族と和解している。グラードンが目覚めた時、自分に特別な力が有る事に気づく。

11歳から13歳の間ジョウト地方のとある人に弟子入りし心身ともに鍛えてもらっているため、ポケモンだけでなく体術もなかなかの腕をもつ。中でも合気道が得意で相棒のガレスも合気道を習っているため使える。ガレスの足運びは合気道が基本となっているため流れるような動きが他のバシャーモとは違う。

旅先で出会ったアカネに好意を抱き、千年祭の最後の日にお互いの気持ち打ち明け付き合い始める。

性格は普段は優しく特に女性には必要以上に優しくなるが、強敵が相手の時は狂喜し口調共々乱暴になる。

隠れた趣味でかわいい人形を収集する趣味がある。刺繍の趣味があり、部屋の中の小物は全てクロノのお手製である。

ポケモンを育てるポリシーは、「ポケモンと一緒に強くなる」であ

りポケモンと一緒に自分も鍛えるため、意外と体育会系である。しかし、ポケモン達はそんなクロノを信頼しており、狂喜した際のクロノの指示も不安がることなく実行する。ポケモンの事を大切な存在と思っっているため、ポケモンを道具として扱う人を許せない。

又ポケモンのニックネームは

「円卓の騎士」に実在した騎士の名前からつけている。

髪の色は茶色でショートカット

服装はGパンに半袖のシャツの上に上着を羽織っている。

服の色は赤と黒をベースにしている。

22話以降からは、服のカラーリングが、白と赤に変わっている。

（裏切りの黒）

ギンガ団達を壊滅した後、ワタルと同じく『ポケモン治安維持』活動に参加し、アカネ達とは別々に世界を旅した。しかし、一向に変わらぬとしない世界に絶望し、『強大な力で人を支配する・すなわち恐怖政治』を執行しようとする組織の幹部になる。と、言うのは敵味方を欺くための作戦だったが、敵に気づかれ失敗の終わる。その後の交戦で、敵組織の手で生み出された偽物に左目を抉られ失明してしまう。

（虹に憧れる者達）

アカネと結婚し、二児の父親になる。普段は自社・ウィールアスコ―ポレーションの副社長の椅子に座り、引退が近いケルアに変わって会社を切り盛りしている。親の七光りで副社長になったわけではなく、自力でここまで上り詰めた。副業として、ワールドリーグのアルトマーレジムのジムリーダーを担当している。しかし、本来ならばクロノがワールドリーグのマスターの地位に居るはずだが、本人が辞退し代わりにジムリーダーを請け負っている（現ワールドリー

グマスターはシロナ)。父親としては、少し親バカな面があるが、良き父親である。2年前まで髭を生やしていたが、ハクリに「似合わない」と一刀両断され全て剃った。ワタルと追っていた、テロ組織を追っている最中にハクリ達と出会い、2人を守ってカナシダトネル内でその生涯を終える。

作者秘話

クロノの狂喜設定は、HぐらしのNく頃にやらTOSラタTスクの騎士の主人公などから来てます。普段穏やかなキャラが豹変すると、なんか弱い自分を隠しているように感じたため豹変させてみました。イメージソングは『Double - Action』

まあこんなもんなか？

クロノ

「俺は殺人鬼か？」

アカネ

「嘘だ！とか」

クリアス

「アインソファウル!とか言い出すのですか?」

裏クロノ

「言わねえーよ!」

クロノ

「うわ・・また出だし」

裏クロノ

「おいおいつれねえこと言っなよ。」

まあそんな感じでできた主人公ですね。

今回はこんな所で終わりです。ではまた!

しょうかい〜クロノのポケモン編1〜（前書き）

今回はクロノのポケモンの紹介をします。

しょうかい〜クロノのポケモン編1〜

読者様こんにちは。キシでございます。

クロノ

「ども」

アカネ

「アカネです」

クリアス

「こんにちは皆様」

今回のポケモン灰色はクロノのポケモン達の紹介です。今出てる6体を紹介します。

クロノ

「ガレスにトリスタン、ゲライント、ジオ。アレスタン、ガラハットの紹介だな。」

アカネ

「他の6体は？」

まだ本編には出てないから後で。

クロノ

「なら、名前だけ紹介な。ガウエイン、ルーカン、ユーウエイン、パロミデス、マーリン、ルイン。」

クリアス

「計6体ですね。」

では、紹介開始します

ガレス

種族〓バシャーモ

性別〓

プロフィール

クロノが最も信頼し、彼のエースポケモン。

クロノを最も信頼しており、最も長い間過ごしているため、お互いに癖を熟知している。又、クロノと共に格闘技を習っているためか、足運びや構えが他のバシャーモよりしなやかである。クロノの事を『マスター』と呼び、敬語で話す。主に使う技は、馬鹿力、ブレイズキック、ブレイブバード、ブラストバードなど。

ゲライント

種族〓ムクホーク

性別〓

プロフィール

ナルシストな性格でクロノとガレスは認め、信頼している。クロノのメンバーの中で一番早く動ける為、戦闘などでは特攻隊長として一番に出ることが多い。クロノがシンオウを旅している時に出会い、クロノとガレスの強さに惚れ旅について行く。主に使う技は、インファイト、ブレイブバードなど。

ジオ

種族Ⅱニドキング

性別Ⅱ

プロフィール

元はトレーナー時代のカイトが連れていたポケモンで、クロノがトレーナーになるときに手渡す筈だったが、カイトが他界してしまうため、セバスから手渡された。当初はクロノの言うことを聞かなかったが、ある事件をきっかけにクロノを認めるようになる。クロノの事を『小僧』と呼ぶ。口調は乱暴だが根は優しい兄貴分。主に使う技は、地震や毒づきなど

ガラハット

種族Ⅱサンダース

性別Ⅱ

プロフィール

クロノの手持ちで唯一の電気タイプ。カントーを旅している時に出会い、それから旅について行く。性格は穏やかで優しいが少し幼い。クロノの事を『くりよの』と呼び、呂律が回らない。主に使う技は、10万ボルト、電磁波、シャドーボールなど

アレスタン

種族Ⅱボーマンダ

性別Ⅱ

プロフィール

自分に絶対の自信がありクロノ以外は見下している節がある。元々は群で一番弱いタツベイだったが、クロノと出会い自信をもち、それ以降クロノについて行く。傍若無人な性格だが、仲間思いである。言うなればツンデレ。クロノの事を呼び捨てにして呼んでいる。主に使う技は、ドラゴンクロー、地震など。

トリスタン

種族〓マニョーラ

性別〓

プロフィール

クロノのメンバーで二番目に足が速い。

クロノを溺愛しており、他のメンバーを撫でていたりやきもちをやき撫でてと催促する。元はジョウトで出会いクロノに一目惚れし付いて来た。進化を拒んでいた（見た目が可愛くなくなるから）が、クロノの危機の際に進化し助ける。クロノを『ニャーリン（ダーリンを文字って）』と呼ぶ。口調は穏やかだが、キレるとメンバー1怖い。主に使う技は、辻斬り、冷凍パンチなど。

ユーウイン

種族〓ウインディ

性別〓

ガレスに続いての炎タイプのポケモン。

忠誠心は高く、高い嗅覚と足の速さを生かし、主に搜索の時などに重宝する。

カントーのグレン島でジムリーダーのカツラから受け取ったポケモンで、再びジョウトで進化した。クロノの事を『旦那』と呼び、少し口調は乱暴である。主に使う技は、神速、噛み砕く、フレアドラ

イブなど。

ルーカン

種族^{II} ガラガラ

性別^{II}

武士道と忠義がポケモンの皮をかぶったポケモン。

もともと、クロノを倒すためにクロノを追っていた野生のガラガラ。身を呈して自分を守ってくれたクロノに一生をささげることが誓う。太い骨を刀のように構え、戦う独特の戦闘スタイルを持っている。

あまり足は速くないが、『待ち』の戦法を得意とする。

クロノを『殿』と呼び、自分をクロノの懐刀と思い込んでいる（クロノとしてはポケモン全員が懐刀）。主に使う技は、ストーンエッジ、地震、峰打ち、など

以上現在公開されているクロノのポケモン6匹でした。

アカネ

「性格が良く分かるね。トリスタンが甘えん坊なのは本編でも書いてあったよね」

うん。描いたね。

クリアス

「では、残りの6匹はいつ頃紹介を？」

とりあえず全員出たら紹介かな？その前にアカネやクリアスの紹介が先かも？

アカネ

「やрийい」

クリアス

「それは嬉しい限りです」

では今回はこんな感じでお開きです。

一同

「では次回」

番外編 「ちびっ子ーズの悪戯」(前書き)

灰色発の番外編。今回はちびっ子ーズこと、ジラーチ、セレビィ、ミユウの悪戯を書いてみました。因みにスゴく短いです。

番外編 「ちびっ子ーズの悪戯」

夜空に輝く千年水星。

それを見上げる一匹のポケモン。

ジラーチ

千年に一度目覚め、様々な願いを叶える事が出来る。

その力ゆえに創造主は彼に、千年の眠りという枷をつけた。その枷は彼を守る為であり、その力を守るためのものでもあった。

しかし、彼はそれで満足していた。

長い眠りの後には見たことのない世界が待っている。それに、眠っている間だでも、あの空間に行けばみんなに会えるからだ

そんな彼が鼻歌を歌いながら、空を舞っていると、更に二匹のポケモンが彼に近づいてきた。

ミュウとセレビィの二匹

「やつほ、ジラーチ。久々の空はどお？」

「うん、気持ちいいね。」

セレビィの質問に笑顔で答えるジラーチ。

千年に一度、限られた7日間を彼なりに満喫している。

「なら、もっと面白い事にしようよ。」

そう提案するミュウの手には黒い筒状の物が握られていた。

小首を傾げるジラーチの手を引く二匹。

そして、あの空間に行くための門を開き、彼らはそれを潜った。

目覚める前にも来た、その空間。

何もなく、無のみがそこには渦巻いていた。

そして、その空間に君臨する創造主―アルセウス。

「あ、神さま。今は寝てるんだ。」

ただ浮かんでいるだけのアルセウスを見るジラーチ。

アルセウスが睡眠を取ることが滅多になく、彼らもアルセウスが眠っている姿を見ることは少ない。

「ね？珍しいから、ちょっと悪戯しちゃおう？」

そう言いミュウは手にしていた筒状の物のキャップを外す。

「ミュウ、何それ？」

「これ？マジックつて言う人間の道具。こうやっているんな物に黒い線が引けるんだよ。」

そう言いながら、アルセウスの顔に落書きを始めたミュウ。

それを見ていた三匹はクスクスと笑い出し、ミュウの落書きに便乗した。

数分後

よもや創造主の威厳すら無くなったアルセウス。

落書きは顔だけに留まらず、全身に及んでいた。

三匹はもはや笑いをこらえる事は出来なくなり、笑い転げていた。

満足した彼らは、その場を離れようとしたとき、その空間に彼が現

れた。

時間を司る者―パルキア。

そして彼はまだ知らなかった。

三匹のせいで酷い目に合うことを。

「ん？ジラーチ達か。創造主に何か用でも有ったのか？」

ジラーチ達を見つけたパルキア。

そしてジラーチ達は手にしたマジックをパルキアに手渡した。

「じゃあパルキア。後よろしく！」

「ごめんねパルキア。」

「無事ならまた会おうね。」

三匹はそれだけ告げると、その空間を後にした。

手渡されたマジックを見て、考え込むパルキア。

そして、アルセウスに目を向けた時、彼は思わず笑い出した。

アルセウスも流石にその笑い声で目を覚まし、見るも無惨なその姿を知る。

未だ笑い転げているパルキアを見るアルセウス。

「ほう。何がそこまで面白いのか、我にも教えてほしいな。時の者よ………」

トーンの低い声でパルキアに告げるとアルセウス。

その声を聞きパルキアは我に返る。

そして手にしたマジックの意味をようやく理解したが、すでに遅かった。

その後、パルキアがアルセウスに怒られたのは言つまでもない。

番外編 「ちびっ子ーズの悪戯」(後書き)

初の番外編如何でしたか？

ちびっ子ーズの悪戯の餌食になったパルキアとアルセウス。
その後、ちびっ子ーズがどうなったかはまた別のお話で。

パルキア「ならば、貴様がこれからどうなるかは今決めよう。」

おや？パルキアさん。なぜ、亜空切断を出そうとしているのですか？

パルキア「知りたいか？」

まあ、落ち着いて下さい。話し合いきましょう。話せば分かりますか
ら？ね？

パルキア「問・答・無・用」

ギヤアアアアアア！

作者絶命

祝2ヶ月！故に特別企画決行！（前書き）

執筆を始めて早2ヶ月。ここまで続けて居られたのは、読者の皆様のお陰です

祝2ヶ月！故に特別企画決行！

今から2ヶ月。まさか、こんな話を書いているとは夢にも思わなかったです。

クロノ

「まあ、何だかんだ言って続いてるな。」

いやいや、これも読者皆様の応援有つてのこと。誠に感謝感激です。

アカネ

「で、今回は何やるの？」

今回は、二ヶ月記念なので他の先生方みたく、人気投票を行いたいと思います！まだ、キャラ少ないけど……

クリアス

「まあ、まだハウエンのキャラとオリキャラしか居ませんからね。」

いやーこんな長くハウエンにいたと思わなかったからね。キシの中ではオーレ地方を冒険してる予定だったんだよね。

クロノ

「軽くネタバレすんなや。」

で、人気投票に伴って、灰色ではハイスピードでキャラ紹介を行います。投票の参考にしてください。

クロノ

「で、投票のルールは？」

はいはい。ではアカネちゃん！説明よろしく！

アカネ

「はい。(カンペ)投票ルールは、一人二票です。この二票は分割して一票ずつにしても構いません。投票対象は本編及び灰色に登場した人物、ポケモンに限ります。例外として作者のキシには投票可能です(ネタですが)」

「その辺の木に一票」とか無しです。まあいませんよね？期間は7月14日から一週間と致します。その間に灰色ではキャラ紹介を行っていただきますので投票の参考にしてください。以上です！」

はい、有難う。

クロノ

「なんで、お前に投票が可能なんだよ！なんだ。あれか？良くギヤクマンガである、メインキャラより作者が上でしたネタか！？」

そうですがナニカ？

クリアス

「やれやれ、困った作者だ。」

アカネ

「本当にだよね」

星

「おいつちゃんもそこまではしないわ」

ケルア

「全く。見るに耐えんな」

セバス

「参加した意味がありませんな。」

アルセウス

「よもや存在の価値も無い。」

……泣くぞ？

それでは、皆様の投票をお待ちしております。

注意）投票の際には、理由などをご明記頂くと作者は歓喜します。

しょうかい〜アカネ編〜

はい、始まりました〜ぼけもん灰色！人気投票に伴いキャラ紹介を行います！

アカネ

「で、今回は私の紹介だよね？」

勿論。ポケモン白黒の唯一の女の子成分、アカネの紹介始めちゃいます！

クロノ&アカネ

「おおー」

アカネ ササイ（笹井 茜）

年齢〓 13歳・裏切りの黒〓 16歳・虹に憧れる者達〓 31歳

性別〓 女

出身地〓 ミナモシティ

所有ポケモン〓 6匹

プロフィール

何でも屋を営むトレーナー。報酬次第ではどんな依頼でもこなすため、裏の世界でもその名は有名である。しかし、金銭目的のために何でも屋を行っているのではなく、『誰かに必要とされている実感が欲しい』ために何でも屋を営んでいる。

家族は父親と二人で暮らしており、母親とは死別している。

父親は科学者であり、普段はアカネの事には無関心であり、彼女が『誰かに必要とされたい』と思うのは父親のせいである。

しかし、その父親がマグマ団の科学者である事は依頼を受けるまで

は知らず、この時初めて父親に必要とされた。

依頼のためクロノに接触したが、彼の優しさに触れていくうちに今の自分に疑問を持ち始めた。千年祭のときクロノに告白され、彼を騙している自分を恥じる。しかし、クロノをどう思っているかを考えた結果、クロノを好きと言う結論に達した。千年祭の最終日にクロノの告白の答えを花火を使って答える。

しかし、父親の頼みとクロノを思う気持ちとの戦いは続いていた。結果、クロノをマグマ団に渡し、後に助けるという方法を取るが失敗に終わる。そしてクロノが怪我を負ってしまった事とグラードンが目覚めた事により起きた災害の負い目を感じ、クロノの元を離れる。

クリアスの正体も薄々感づいていたが、クロノが彼を信頼していたため、説得しようと単身アクア団を追う。又、カイオーガの復活を阻止する目的も有ったがそれは失敗に終わる。

性格は明るく前向きを装っているが、人に嫌われる事を酷く恐れている面がある。しかし、身を犠牲にしても大切な人を守る精神を持っている。

何でも屋を営んでいるためか、手持ちのポケモンはバトルより、冒険などを使うことが多い。しかし、バトルセンスはなかなかの物を持っている。

年相応なスタイルだが、本人は胸の事を気にしている。

髪の色は茜色。髪が長いため普段は三つ編みにしている。又の上に上げて纏めている。

服装は、半袖の上着に、ミニスカート。スカート内にはスパッツをはいている。

〈裏切りの黒〉

クロノ達とは別れて、父親と共に生活を送っている。何でも屋を未

だに続けているが、以前ほど危険な仕事はせず、主に運送業をしている。アルトマーレ、クロノ邸襲撃事件を聞きオーレ地方から急いで戻ってきた。しかし、久々にクロノに出会って、変貌したクロノの姿を見て、涙した。

（虹に憧れる者達）

クロノと結婚し、2児の母として生活している。ウィールアスコーパーレーションにも務めており、ホビー部門のチーフの肩書を持つ（主に児童用の絵本の執筆）。絵本を通じて、アルセウス達がこれまでしてきた事を、未来に受け継がせたいと思つての事でクロノやアルセウス達も了承している。クロノが多忙なため、公私に渡って彼をサポートしてる。

母親としては、理想的な人物であり、クロノのような親バカさは無い。しかし、ハクリがもう少し女の子らしく育ててほしいと思つている。（本当ならば、ハクリにはコンテストを目指してほしいかっと思つている）また、クロノが暴走することが有る為か、的確に人の首に手刀を入れられ気絶させる事ができるようになった。

作者秘話

アカネは現在殆ど小手入れしていないキャラです。キャラデザのまんまが、今のアカネですね。名前は茜色から来ていますが、ジョウト地方に同じ名前のリーダーいましたよね。
イメージソングは『超新星・スーパーノヴァ』

アカネちゃんの説明しゅーりよー。

アカネ

「私ってキャラデザインの段階のまんまだったの？」

うん。クロノとかは大まかなとは何にも変わってないけど、バトル中に豹変は後から付けた。その点アカネちゃんは良くも悪くも変わってないね。

アカネ

「変える気は？」

いや？今のままでもいい感じだと思うよ？

アカネ

「そう？有難う。」

では、次はクリアスの紹介だー！

クリアス

「よろしくお願いします。」

しょうかい〜クリアス編〜

キャラ紹介第三弾！今回は予告通りにクリアスの紹介です

クリアス「どうも。最近出番の少ない私です。」

まあまあ。ここから出番多いから、我慢して。
では紹介始めます。

クリアス「キヤスパニア

性別「男

年齢「16歳

出身地「???」

家族「7人（現在家出中）」

所有ポケモン「6匹

<プロフィール>

キヤスパニア家の末っ子として生まれた。キヤスパニア家は代々騎士の名家であり財力なども大いにある。いくなれば貴族。しかし、クリアス以外の上4人の兄弟のみ大事に育てられ、クリアスは家は雑用などをさせて過ごしていた。唯一心を開いていた祖父母がいたが、9歳の時に他界してしまう。生前祖父に騎士がどういっ物をかを教えられ、人に役に立つ事、自分が命を賭けられる主を見つけることを生きがいとしてきた。しかし、祖父母が他界したとき家を飛び出し、アオギリ達、ハウエン自然保護協会に身を寄せる。自然保護協会は戦災孤児や身寄りのない子供たちを引き取り活動を行っていた。自然保護協会に身を寄せてからは、年の離れたシズクを姉と慕い、今までに感じたことのない安心感の中生活してきた。11歳のころから、ポケモンバトルの才能を開花させ協会の中で1〜2を争う程となる。その頃より自然保護協会が真のアクア団であるこ

とを知らされる。悪事と分かっていながら、騎士としての恩義を返すため、自ら罪人となる決意をして生きていく。しかし、生活してきた中でのアオギリは彼にとって命を張るに等しい人物であった。アクア団の中での階級は三幹部の地位を持っており、「海刃^{かいじん}」の二つ名を着けられていた。クリアスはこの二つ名を保護協会の仲間との絆と思い誇りに思い大切にしてきた。

クロノを探し単独任務に当たる最中にポケモンコンテストの魅力に取り付かれ、バトルよりこちらを優先するようになる。

仲間内でも知る人が少ないが、重度のロボオタクである。クリアスのロボの定義は「変形合体、さらにドリル戦車、電車、戦闘機などが合体したものが美しい。物語後半でグレート合体は究極の美学」だそう。

旅先でアカネとバトルした際に、少なからず恋心を抱いていたがクロノとアカネの関係を知り、身を引く。

クロノと旅をしていく内に、アクア団の行いに疑問を感じ始める。カナシダトンネルでのアクア団襲撃の際には、自然とクロノを助けてしまっていた。その時、クロノが仲間と呼んでくれた事に涙し、主と騎士としてではなく、親友としてクロノを守った。クロノを悪用させまいと、フエントウンに誘導するが仇となり、結果グラードンが目覚めてしまった。

そのまましばらくはわだかまりを抱えたまま、アクア団として働いていたが、海底遺跡にてアカネと再会した際に「本当の仲間なら、間違いを正さなきゃ」という言葉で、目が覚めアクア団の仲間を止めることを決意する。しかし、決意を新たにしたがカイオーガが目覚めてしまい、アカネに自分のホエルコを渡し、海底遺跡に消えた。

髪は金髪の長髪。描写がありませんが、かなりの美形です。

服装は、魔術師のローブのような白いコートを羽織、半そでのワイシャツにズボン。コート以外は普通の良いとこの息子のような格好

です。

イメージソングは『ナイツオブナイツ』

<作者秘話>

急遽考えたキャラですが、実はクロノより細かいところが考えてあるキャラです。初期ではルー語で話す変なキャラのつもりでしたが、止めました。名残として、初登場時に少しルー語で話しています。ロボ好きなのは完全にネタです。悪ふざけです。

クリアスはこんなもんなかな？

クリアス「ロボットは良いですね。合体の時はいつ見ても美しい・・・」

あーなんとなくわかるわあ。

クロノ「まさかお前にそんな趣味があるとは・・・」

アカネ「意外だね。」

クリアス「おや？そう言う主も人には言いにくいご趣味があるはずですが？」

クロノ「！！！！な、なんでそれを！？見たのか！俺の部屋を見たのか！？」

クリアス「さあ？どうでしょう？」

アカネ「何々？クロノの隠れた趣味は何？」

クロノ「黙秘権を筆耕いたします。」

まあそれはおいおい分かりますから。

では今回はこんなもんで。

次回は、ケルア、セバスとかのサブキャラ編でいきます。

しょうかい〜サブキャラ編〜

今回の紹介は、ぶつちゃけサブキャラの皆様。ではサクサク行きます

ケルア⇨ウィールアス

性別⇨男

年齢⇨52歳

出身地⇨???

所有ポケモン⇨???

プロフィール

クロノの父親。ウィールアスコーポレーションの二代目社長（初代はクロノの祖父）。弟の息子を養子にして引き取り育ててる。弟が息を引き取る際に、

「私達の方まで息子を愛して欲しい」という、お願いを受けそれを全うしたが、実子であるクロノに対して冷たく当たってしまった。

しかし、ケルアは実子であるクロノならば、心中を察してくれると思っていたが、実家でクロノの思いを知ったとき、それが間違いだった事に気がつく。暫くは負い目からクロノに対して、何かをしてあげることが躊躇っていたが、テッセンの一括を受け、再びクロノと向き合う決意を決め、ジムリーダー達と共にマグマ団のアジトに乗り込む。

その後、入院したクロノに今まで秘密にしてきた事と心中を話、クロノと真の意味で『家族』として歩み始めた。

少し過保護気味な面があるが、クロノの事を大切に思っている。アカネ達を助けに行くクロノを心配しながらも新しい服を渡し、必ず助けに行くと言い送る。

性格は、冷静沈着を装っているが、かなりの熱血漢。人に出し抜かれたり、騙されることを何よりも嫌う。若い頃は、かなりの荒くれ

者だった。

ポケモンはサイドンやドサイドンなどの地面タイプを持っている。又、ラティアスやラティオスなどと面識があるようで、クロノの謎の力についても少なからず知っている。

母親（サクナ＝ウィールアス）

性格＝女性

年齢＝45歳

出身地＝???

所有ポケモン＝???

プロフィール

クロノの母親。物腰が柔らかで誰にでも優しく接する、優しい心の持ち主。ケルアの弟の願いを聞いたが、ケルアほど全うできず、その分クロノには優しく接することが出来た（クロノがケルアを親父、サクナを母さんと呼ぶことから伺える）。

普段は家の家事をメイド達と一緒にこなしており、男性でも大変な力仕事も涼しい顔でこなすタフな体力を持っている。

クロノに彼女が出来たことを内心かなり驚いていた。

空の柱に单身向かうクロノを心配しながらも、また元気な姿で戻ってくることを信じ薬を渡し見送る。

所有ポケモンやバトルスタイルは未知数だが、若い頃の話をする事を凄く拒むため、かなりの実力を持っているようである。

セバス（本名、リナス＝クリステイ）

性別＝男性

年齢＝48歳

出身地＝カントー、マサラタウン

所有ポケモン「サーナイト」、エルレイド

プロフィール

ウィールアス家に仕える執事長。

主にケルアの補佐をしているが、家事全般だけでなく、ボディーガードも行っている。ボディーガードの実力は折り紙付きで、人混みの中のクロノを見つけたり、相手の蹴りを防いだりと、48歳とは思えない身体能力を持っている。最も得意としているのは剣道であるが、体術もこなせるため、クロノの組み手相手をすることもある。クロノやケルアにとって良き理解者であり、良き相談相手でもある。最近ポケモンバトルはやらなくなったが、そこそこの腕を持つ。近年はポケモン達も執事やメイドとして一緒に働いている。最近、未婚のため跡取りの事を気にしている。

作者秘話

初期のケルアはクロノの血の繋がっていない父親という設定で、冷たくあたる設定はここから来ています。ただ社長なのは急遽付け足した設定ですね。

母親のサクナは、涼しい顔で何でも出来るキャラを考えてたらしいの間にかお母さんがそうなってましたね。でも、軽くやんちゃなところがありますね。

セバスは愛称で本名では別にあります。ちなみにセバスと始めに呼び出したのはクロノです。手持ちのサーナイトやエルレイドは何となく執事やメイドっぽかったから手持ちになってもらいました。

しょうかい〜ジムリーダー編〜(前書き)

人物紹介はこれで最後です

しょうかい〜ジムリーダー編〜

はい。今回はジムリーダー達を主に紹介します。テッセン、アスナしか出てないけどね……
では、始めます。

テッセン

プロフィール

キンセツシティのジムリーダー。またハウエンのジムリーダー達のまとめ役。普段は笑い上戸な人で、町外れのカラクリ大王とは発明仲間。ジムの改造と料理が趣味で夜は港で屋台を開いている。しかし、戦いになると一転し、挑戦者を圧倒する覇気を纏う。ケルアとは公私ともに仲がよい。
またシンオウには息子がジムリーダーをしており、同じ電気タイプを扱う。親子ともにジムを改造し街を停電させか事がある。

アスナ

プロフィール

フエントウンの新米ジムリーダー。ジムリーダーに着任してからまだ日は浅いが、日々先代ジムリーダー（アスナのお爺）に近づけるように頑張っている。

マグマ団がクロノをおびき寄せようとしてフエンを襲った際、先頭に立って対抗したが一歩及ばず。そのため現在のフエンは廃墟同然のゴーストタウンと化している。

フエンを壊される原因のクロノがグラードンを停止させる作戦に参

加する事を反対していたが、病院屋上にて一緒に戦うことを承諾する。

フエントウンはアスナのお爺ちゃん作った町であり、町そのものがアスナの誇りだった。

大のお爺ちゃん子。

ダイゴ

プロフィール

ホウエンの現チャンピオン。

普段は世界中を駆け回り珍しい石を探し回っている。

物腰柔らかく絵に描いたような紳士だが、ポケモンバトルの実力は他の追隨を許さない。主に鋼タイプのポケモンを使い、メタグロスがパートナー。

シンオウに別荘を持っていたが、不要になったため見ず知らずの人にあげてしまった。そのため父親にすごく怒られたらしい。以外と金銭感覚が人とズレている。

人物の紹介はこれで最後です。

次からは、ポケモンの紹介です。

しょうかい〜ポケモン編〜（前書き）

キャラ紹介は今回が最後です（人気投票用の）

しょうかい〜ポケモン編〜

今回からはポケモンの紹介です。最初はアカネ、クリアスの手持ちのジユカインのビレッジ、エンペルト。
次に神様達の紹介です。

ビレッジ

種族〓ジユカイン

性別〓

プロフィール

アカネのパートナーポケモン。彼女が5歳の誕生日の時に父親からプレゼントされたポケモン。本来は森での活動を得意としているが、平地で過ごした日数が長いたため平地でも素早く動ける。

アカネのことを呼び捨てして呼んでおり、クロノとの交際はあまり快く思っていない。

使う技は主に、リーフブレード、シザークロス、地震など

エンペルト

性別〓

プロフィール

クリアスのパートナーポケモン。クリアスが海岸清掃中に弱っているとところを保護。その後はクリアスの手持ちに加わり現在に至る。クリアスのことを『主』と呼び、侍のような口調で話す。

主に使う技は、ハイドロカノン、身代わり、ラスターカノン、ドリル嘴など。

ルイン

種族Ⅱラティオス

性別Ⅱ

プロフィール

この世界を作った『創世者』の一匹。またクロノの12体目のポケモン。

創世者として司るものは『勇氣に満ちた夢』

過去にクロノに助けられた事を切っ掛けにクロノの旅に同行。性格は大人しく、丁寧な口調で話す。

滅多な事ではバトルに出してもらえないが、実力はかなりのもの。

ラティオス

性別Ⅱ

プロフィール

この世界を創世したポケモンの一匹。司るのは『愛に満ちた夢』

普段はアルトマーレを拠点し世界を飛び回っている。

兄であるラティオスがクロノと一緒にいることをあまり快く思っていないが、クロノの事を一応は信頼している。

特にやる気の無さそうな態度をとるが、この世界の行く末を真剣に考えている。

人間との共存には賛成している。

ダークライ

性別¹¹

プロフィール

世界を創世したポケモンの一匹。創世者として司るのは『深淵の悪夢』

創世者とクロノを話し合わせるように提案し、クロノの知りたがっている全ての事を知っている。

ホウエンの異変にいち早く気づいていながら手を出さなかった事を他の創世者に指摘されたが、それは人間を試すためにあえてのこと。今現在は傍観者としてクロノ達を見定めている。

人間との共存には中立的立場を取っている。

エンテイ

性別¹¹

プロフィール

創世者の一匹。『畏怖されし業火』を司る。

クロノの兄カイトを殺した張本人であり、人間との共存を頑なに拒んでいる。過去に二度人間を信じたが、その悉くを裏切られてきた。それ故に人間を信じられなくなっている。

人間との共存を反対している。

ジラーチ

性別¹¹不明

プロフィール

千年に一度、7日間だけ目を覚ます創世者。司るものは『誠実なる願い』

クロノに対して、願いを叶える力を使い、アカネと付き合う切欠を

作った張本人。遠く離れた場所を見る力があり、空も自由に飛べる。アルセウスに対してはミュウやセレビィと一緒に悪戯をしたが、未だにバレていない。人間との共存には賛成派

アルセウス

性別〃不明

プロフィール

この世界を創世したポケモン。

人間とポケモンと言う二つの異なる命を生み出したが、人間の暴挙に対し、人間の存在意義に疑問を抱いている。

しかし、人間を生み出したのはアルセウス本人であり、人間にも命があるため、人間を消すことを躊躇している。

特別な存在のクロノとの対話を待ち、それから世界の行く末を考えようとしている。

滅多に睡眠と取らず、たまに睡眠をとる。睡眠中、全身に落書きをされ、近くで腹を抱えて笑い転げていたパルキアにキツイお灸を添えたが、犯人は別に居る。

グラードン

性別〃不明

この世界の大地を作ったポケモン。司るものは『荒ぶる地帝』。

性格は豪快で細かいことは考えず、頭より先に手が出る。

人間は好きではないが、世界規模でみたら、人間は必要な存在と考えている。

人間との共存は中立ではあるが、どちらかというところ、共存には賛成側である。

カイオーガ

性別＝不明

司るものは『静かなる海神』。世界を作ったポケモンの一体。常に海底遺跡で眠っているが、念で世界を見つめている。最近の趣味は人間の衛星TVを念で見ること。とあるアイドルが電撃結婚したことに少なからずショックを受けている。性格は冷静で、多少頭でっかちなところがある。

レックウザ

性別＝不明

『無垢なる空』を司る創生者。誰よりも空を愛しており、空をけがすものには容赦ない。

空を何も考えずに漂う事が趣味で良くデオキシスと漂っている。(しかし、デオキシスの言っていることはつい最近まで分からなかった。)

人間との共存は、条件付きで賛成である(空を汚さなければ)。

終わったあああー。

これで、今回のキャラ紹介は終わりです。

今回キャラ紹介した人とポケモンに投票してください。
では、また次回。

話が進につれて、キャラ紹介の内容も変化します

創世記（前書き）

本編でクロノが読んでいた本の第一章を抜粋。

まあ、『アルセウス超克の時空』が公開したので、白黒の世界観を知ってもらう為に書きました

創世記

何もない空間。闇のみがそこにはあった。

しかし、何もないその空間に一つの卵があった。その卵が誰のもので、何が生まれるのかは誰も知らない。否、知る者や見る者さえそこには居ない。

やがて卵より一匹の命が生まれた。その命はあらゆる者を創造し創世する事が出来る。

汝の名を『創世主』

何も無いその空間に創世主は、世界を作ることにした。それは気まぐれか、寂しさからかは創世主にしか解らない。

創世主は始めに世界の基礎である、空間と時間。そして世界を支える異世界の主を生み出した。

時間を司る者。

時は鋼のように堅く、変えることの出来ないもの。

故に汝の名は『鋼の時』

空間を司る者。

空間と常にその姿を変えるもの。そう、流れる水のように。

汝の名は『悠久の間』

異世界を支える者

常に世界の隣にいるが、決して交わらない。まるで影のように世界の後ろに存在する。

故に汝の名は『見えない影』

こうして世界の基礎が完成した。しかし、それでも世界はいまだ何も無い。

創世主は一つの星を作り出した。
そして星に三体の命を取きはなつた。

命芽吹く大地

命は大地に生まれ大地に帰る。決して変わることがない命の法則。
汝の名は『荒ぶる地帝』

穏やか母なる海

始まりの命は海より生まれた。打ち寄せる波は命の古里。
汝の名は『静かなる海神』

大地と海は互いにその領土を欲するため争い、空間を渡さなかつた

しかし、空は違つた。

大いなる青き空

何者にも汚されず、奪われない空は、正しく自由の証。
汝の名は『無垢なる空』

こうして命の土俵は完成した。

しかし、未だに命が芽吹くにはまだ足りなかつた。
そして、命を生み出す者達が生まれた。

荒々しく舞う命の炎

命は炎。いつ消えるかもしれぬ命は炎そのもの。そして命は誰にも縛られない。舞う羽のように……
汝の名は『七色の炎』

冷たく生を受け入れる白銀
命はいずれ潰える。白銀はその命を、魂を海に帰す者。
汝、『白銀の淵』の名を持つ。

『七色の炎』と『白銀の淵』に三体の従者を創世主は使わした。

荒ぶる炎の叫び

かの者の叫びに命は、大地は歓喜する。まるで魂が騒ぐがの如く。

その叫びは畏怖すら覚える

汝『畏怖されし業火』

雷を背負うもの

その雷、地を駆け大地を抉る爪。叫びは雷鳴なり。

汝『迅雷の爪』

北風と戯れる者

汝が触れた水は、あらゆる汚れを浄化し新たな命の糧となる。

しかし、汝風のように消えゆく。

汝の名は『命背負いし水神』

彼らが生まれたことにより、生き物の命が育まれた。

しかし、世界には色が無かった。

そして『白銀の淵』の従者達は世界に色をもたらした。

暖かき生まれをもたらす羽

その翼は燃ゆる炎の如し。汝一度羽ばたけば、世界は目覚めの色に

染まる。

故に『新生の羽音』を名を持つ

激しく轟く雷鳴の翼

彼は荒ぶる雷をもたらす。そして雷と共に恵みの雨を引き連れる。

雨は色の境目となり新たな色へと移り変わる

『境界の雷鳴』と彼は名乗る。

氷雪を纏し者

彼の訪れは新たな命のバトンを生み出し、次の色への橋渡しとなる。時を重ねるにつれ彼の強さは強くなり、『新生の羽音』と受け継がれる。

汝、『実りと眠りの氷雪』

こうして世界には『色』が生まれた。色はやがて『四季』と名を変えてゆく。

そして創世者達以外の命が生まれた。

魔獣と人間。

しかし、彼らには知性が無かった。共に喜び、悲しみ、考え、未来に進むための知性が……

そして創世主は黄、赤、青の三色に知性を分け、世界に解き放った。

黄色の知恵が世界を渡ると、命は考えると事を知った。そして未来に進める事を知った。命には彼の色は未来の光にすら見えた

そして彼は命達から『未来の威光』と呼ばれた

赤き感情が世界を巡ると、命達に、喜びや悲しみが生まれた。こう

して命にも『喜怒哀楽』という『感情の色』が出来た。
『喜びの真紅』それが命達からつけられた名だった

青い意志が世界を見つめると、命達は、決意を身につけた。決意は命達を動かし新たな道へと導く。

『青き意志の道』彼は命にそう名乗った。

世界、命は色を持った。しかし世界は光に包まれたままだった。命達は夢と戦ったが、限界だった。

創世主は、命が休まる時間。夜を生み出した。しかし、夜を照らす者を生み出すことで夜を優しく照らした。

月光を生み出すもの

彼女は夜を優しく照らした、夢と戦う者達にお守りとして、自信の羽を渡した。

命達から『三日月の羽』と呼ばれた。

夜が生まれたとき、三つの夢が生まれた。青、赤、黒。彼らは休む命を新たな世界に誘った

夢幻の青が見せる夢は、勇気に満ちていた。彼と一緒になら勇気が途切れることは無かった。

故に『勇気に満ちた夢』と称えられた

夢幻の赤が見せる夢は、慈愛に満ちていた。彼女と一緒にならば皆を愛せた。

故に『愛に満ちた夢』と称された。

黒に深淵が見せる夢は、恐怖に満ちていた。故に命は彼に会わないように生きた。しかし、深淵はすぐ後ろに居た……
汝『深淵の悪夢』と言われ恐れられた。

人々が知性を持った事により、一組の兄弟の絆に亀裂が入った。

兄は『真実』を求め。

弟は『理想』を求め。

一匹の魔獣の心は、『真実』と『理想』に分かれ、やがて大きな戦争を起こした……

争いはすぐに収まった。しかし、兄弟の子孫が再び争いを起こした……。

絶望した『真実』と『理想』は彼らのいる土地を焼き払い、雷で人を懲らしめた……

その後、『真実』は『白炎の真実』。『理想』は『黒雲の理想』と呼ばれ恐れられた……

この争いによつて、人と魔獣は住処を焼かれた……
そんな者達へ創生主は3匹の『正義』を使わした。

『鉄の正義』を持つ者は、人と魔獣を守る為、元凶と戦った

『岩窟の正義』は逃げ惑う人と魔獣の逃げ道を作る為、その力を振った

『新緑の正義』は人々と魔獣に降りかかる火の粉から彼らを守った。

そして3匹は兄弟の子孫達に、二度とこのような事をしないようにと、諭した。

心を無くした魔獣の体は、凍て着き、無くした心を求め、人々を食らった・・・

まるで隕石のように大地に舞い降り、大地に深い傷跡を残した・・・
『心なき氷竜』と恐れられた。

『心なき氷竜』が舞い降りると、粉塵が空を覆い、日光を隠す。

創世主は、6枚の羽をもつ太陽を生み出した。

『火の粉を纏う太陽』

太陽の光により、『心なき氷竜』の体は溶け始めた。

『心なき氷竜』は、その身を深い洞窟の中に隠し、深い眠りにつきその体を癒した・・・

世界は歩み続けた。しかし、孤立した大地は、新天地を求めた。

哀れんだ創世主は大地を動かす巨大な腕を生み出した。

巨大な腕は、大地を動かし大陸を動かした。命は新しい大陸で他の命と交流し、巨大な腕に感謝した。

腕は『元素の巨人』と呼ばれ崇められた。

しかし、巨人の力は強大過ぎた。そこで創世主は巨人に三つの鍵をかけ、力を抑制した。

鋼の鍵

石の鍵

氷の鍵

鍵達は光無き者にしか読めない言葉を使い、その身を隠した。

創世主は、時を渡れる者を生み出した。

時渡りの神草

草木を纏い、時を越え彼は世界を監視した。彼のみこの世界の理に

縛られない存在だった。

命は彼を『時を超える聖樹』と呼ぶ

命は感謝することを覚えたが、表現出来ずに居た。創世主は感謝する気持ちを持った命達に模範となる創世者を使わした

創世者は時に愛らしく、時に勇ましい姿へ変わった。

しかし、変わらないものが有った。感謝する気持ち。いかなる姿になろうとも彼は、命を感謝し、命に感謝された。

命は彼に花の名を名付けた。

『感謝の花』と………
グリンチア

命達は、夜空に浮かぶ星に願いを込めた。

先年に一度現れる巨大な星の使者がこの星に舞い降り、命の願いを三つ叶える約束をした。しかし、彼は巨大な星が現れる7日間のみこの世界で活動出来る。

そして、彼が叶える願いは、心より願った願いだけだった………
故に『誠実な願い』と呼ばれた。

母なる海には時が無かった。故に創世主は、母なる海に時を生み出した。

彼が流れを作りだし、母なる海には時が流れた。青き海の主は命から『蒼海の王子』と呼ばれた。

こいして世界は完成した。しかし、星の外には誰もいなかった。否、誰も住めなかった………

創世主は星の外で暮らせる命を生み出した。そして、その命は別の星に住み、この星を見定めた。

口伝でのみ語られた彼は『異星の命』と呼ばれた。

最後に創世主は、自分の半身を生み出した。

半身は全ての命の基礎であり、全ての命を象っていた。故に『全ての源』と呼ばれた。

人々が平穏な世界を歩んでいると、2匹の魔獣がそれを崩した。

一匹の魔獣は暴風にて人々の作物や住処を壊して回った

一匹の魔獣は雷撃にて人々と魔獣を襲った。

『無慈悲な風神』 『気まぐれな雷神』 と呼ばれ始めた

そんな魔獣を懲らしめるため、一つの火山が創世主の手を借りて、魔獣へと姿を変えた。

火山は、その力を借りて彼らを、誰も居ない山の中へ閉じ込めた。そして、閉じ込めた魔獣の力を使い、人と魔獣の住処を元通りにした。

『芳情すべき火山』と人々から呼ばれ始め、火山は世界を飛び回った・・・

（創世記）第一章『神の誕生』より抜粋

創世記（後書き）

はい、アルセウス超克の時空が本日公開されました！
ちなみにキシは今日見てくださいました。

クロノ「今回は、俺が読んでた本の第一章だったよな？」

はい。覚えていた読者は少ないと思います。
ですが、まだ第二章とかも書いていきますよ

人気投票結果発表

はああああい！連載祝二ヶ月連載記念の人気投票の結果を発表していきます。

アカネ

「だれが一番なんだろうね？」

クリアス

「まあ大体予想は出来ますよね。」

まあまあそう言わずに。
では第五位からの発表です。

第五位

これは2人同票です。

まず、一人目はセバスことリナス「クリスティー！」

セバス

「おや？私めにございますか？」

うん。理由は

- ・執事なキャラが良い。
 - ・実は最強キャラなのでは？
 - ・頼もしいおじさま。
- などなど

セバス

「なんだかむず痒くなってきますな。」

で、次はクリアスⅡキャスパニア。

クリアス

「私ですか？」

そ。理由は

- ・クロノに対しての決意が格好いい。
- ・自分との葛藤する姿が良いなど。

クリアス

「なんとも嬉しい限りです。」

では、第三位

これも二人同票

まず一人目は、ケルアⅡウィールアス！

ケルア

「なんと。私か。」

うん。理由は

- ・クロノに対して想いが美しい。
 - ・息子としてではなく、男として全てを話したシーンが格好良かった。
- です。

ケルア

「うむ。照れるな……。」

次は唯一のポケモンキャラ。神様ことアルセウス。

アルセウス

「なぜだ？そこまで出てはいないが？」

えーと理由は

- ・最近映画に出るから
- ・世界を思う気持ちに神様らしい。
- ・悪戯書きされた時、パルキアを怒ったところがお茶目です。

アルセウス

「………最初関係無いきが………」

まあね………

では、第二位

白黒のメインヒロイン！

アカネ＝ササイ！

アカネ

「やったー！」

理由は

- ・クロノから勇気をもらったみたい
- ・クロノを想い気持ちが良い
- ・彼女こそ真の主人公です。

アカネ

「ふふふのふ！クロノを思う気持ちなら誰にも負けないから！」

次は栄えある第一位！

主人公の威厳は保たれた！

クロノ〃ウィールアス！

クロノ

「主人公なら当たり前！」

理由は

・アカネとクリアスを思う気持ちが熱い！

・バトル中の狂喜した時が格好いい。

・主人公だから

などです。

クロノ

「狂喜中の俺が人気か……。ならもつと発狂しようかな？」

止めて。バトル描写ばっかになっちゃう……

実は、ランク外だけど意外な人物に票が。

クロノ

「誰だ？」

俺だ。

アカネ

「は？」

クロノ

「マジカよ」

マジだよ。

理由は

・キシさんがいたからポケモン白黒が生まれたから。
だそうです。

いやー。私に票を入れてくれた方。ありがとうございます！

人気投票はこれでおしまいです。

これからもご愛読よろしくお願ひします

せつてい

えー、こんにちは、こんばんは。はじめました、お久しぶりです。
ポケモン灰色はじまりました。

クロノ「で、今回は何をやるんだ？」

今回は以前書いた『創世記』の伝説ポケモンの設定を説明を
していこうかなど。

アカネ「ならだれから説明するの？」

最初は一番反響が大きそうなルギアさんから。あと今回は説明する
ポケモンが今回は特別ゲストで来るから。

3人「な・ん・で!!！」

では、ルギアさんどうぞ。

ルギア「うむ。どうも。」

クロノ「本編に出てないキャラがこっちで先にたよ……」

ルギア「なにか、文句でも？」

アカネ「いえいえ何も。」

んじゃ、本格的に説明するよ。

このポケモン白黒でのルギアの位置づけは、ホウオウの対い位置す

ように設定してみた。

ホウオウが『生』を司っているなら、ルギアが『死』を司ると、キシ的にはじっくりくるかなあと思って。

クリアス「では、海のキーワードは？」

キシの個人的主観だけど、海ってなんとなく、黄泉の国につながってそうで怖いイメージがあるのよ。それに、お盆とか海で無くなった人に対して船流すじゃん？あれのイメージから。

ルギア「他の世界の私は知らないが、この世界の私は無くなった人の魂を管理するのが私の役目。常々忘れないでくれ。」

では、ルギアさんありがとうとございませう。では次のゲストは、伝説の鳥さん。フリーザー、サンダー、ファイヤーの3匹！

フリーザー「おっほっほっほ。ドド アさん御冗談を。」

サンダー「お前何言ってるんだ？」

ファイヤー「名前が似てるからって無理なボケはやめたほうがいいぞ？」

フリーザー「……ああ。」

クロノ「何言ってるんだ？こいつ。」

まあいいや。では説明を行います。

この鳥さん三匹には『四季』をイメージした設定をしています。ファイヤーが春、夏。フリーザーが秋、冬。

クリアス「ではサンダーさんは？」

知っている人は少ないだろうけど、四季って名前だけど本来は6この季節で一年は回ってるの。で、残り二つは、梅雨と嵐も四季の間です。

アカネ「へー初耳。」

サンダー「まあ。知らなくてもしょうがないだろ。短いし、日本なら嵐なんて滅多にないし。何より梅雨と嵐が四季の仲間だったのも大分前の話だしな。」

クロノ「なら、なんで作者は知ってたんだ？」

おう？何年か前に『世界一受けたい授業』でやってたのを覚えてただけ。忘れてたら別の設定になってたかもよ？

まあ、今回はこんなもんかな？

クロノ「ずいぶんアバウトだな。」

とりあえず、説明したほうが読者様が理解しやすいと思うものを説明しただけだし、実際に質問が来たわけじゃないからね。

アカネ「なら、質問が来たらまたこんなコーナーを作るの？」

もちろん。来た質問には迅速に答えるよ。

クロノ「だそうです。」

クリアス「では、読者皆様。質問をどしどしお送りください。」

アカネ「作者さんが、荷馬のように働いて質問に答えます！」

ちよ！貴様ら！なに宣伝してんだよ！

クロノ「だってさっき言ったじゃん？質問に答えるって。」

言ったが、宣伝することもないだろ？

クリアス「いえいえ。質問したくても、後一步が踏み出せない人も
いるかもしれませんよ？そんな人のための宣伝です。」

くそ！言いださなきゃよかった（G・ムセンターCXの課長風に）

クロノ「・・・なんか最近作者壊れてないか？」

アカネ「なんでも、最近ゲームセンターCX見てハマったみたいだよ」

クリアス「だから、他の番組のネタが増えてるんですね。PCも買ったみたいですし。」

ネタは問題ない！パクったら作家が謝るから！

クロノ「だまれ！グラ仮面！」

アカネ「二人とも。あんまり他局のネタ使つと、本当に訴えられるよ？」

クリアス「まったく……。」

鳥三匹「」「もう帰っていいですか?」「」

s t a r t u p ! l a d y ! (前書き)

今日のキシはアクセルフォーム

s t a r t u p ! l a d y !

ついにこの時が来ました！

この胸の高鳴り！血が騒ぎます！

クロノ

「何言ってるんだお前？」

アカネ

「気でも狂った？」

クリアス

「医療班を！」

ふ。付き合ってやるよ。十秒間だけな。

と、お遊びはここまでにして。

今日は金銀発売日です。

いやーリアルタイムで初代金銀が出来なかったからマジで楽しみで
す！

それにともない、暫く本編の更新がおろそかになることを宣言しま
す！

クロノ

「んなもん宣言すんなー！」

ん〜。だってジョウト地方の設定はポケスペでしか知らないから、本編でも書きようがないんだもん。グダグダな（普段からグダグダか？）話を書くのは読者様に失礼でしょ？

クロノ

「く。正論を！」

アカネ

「でも、あんまり間を空けるのもどうかと思うよ？」

大丈夫。今日のために二日間既望休とつたから金銀を二日でクリアするつもり。

クリアス

「ポケモンの捕獲は？」

サブロムのプラチナに全部一匹づついるから必要最低限しか捕獲しない！

取りあえずジョウト地方の流れが知りたいから流れだけ知ったら本編書いて、その後になったりプレイするから気にしない。正直な話自分のメインポケはプラチナにいるから金銀は話と後ろにポケモンを連れて歩けるって点に惹かれて買う。あとバトルフロンティアとシロガネ山のレッドがどうなってるのか。

と言っわけで更新が遅くなるかもしれませんが、これからもポケモン白黒をよろしく願います！
ではみなさま、楽しいポケモンタイムをお楽しみに。

しょうかい〜星編〜

お久しぶりです。久々のポケモン灰色を更新します。
今回は、サブキャラから格上げされた、マーキュリーこと星のおっ
さんです。

星「どーも！影の主役のおっさん登場！！」

寝言は寝て言え。大半がコピペですが、どうぞ！！

星（本名：セイ・フォウハウスマン）

性別〓男性

年齢〓36歳

出身地〓シンオウ

所有ポケモン〓現在3体

プロフィール

自称凄腕の情報屋兼何でも屋。見た目は胡散臭さが服を来て歩いて
いるような人物であるが、持っている情報は確かなものがある。ま
た、時折見せる鋭い眼光はまるで別人にすら見える。

煙のように突然現れたり、突然消えたりするまるで忍者のような身
のこなしを持っているが、本人は過去や素性を話そうとしない。

服装は半袖のインナーに陣羽織のような上着を来ている。

髪はバサバサで、無精髭を生やしている。ズボンもダボダボなもの
を着ている。

また、濡れることを居やがるため腰には傘をぶら下げている。

しかし、その正体はクロノ達の時代から数千年前の時代から、神々
の戦いによって現代に飛ばされた過去の人物。その時の戦いで自前
の命は尽きかけていたが、神々の争いの原因となっていた『命の宝

玉』の欠片によって今を生きている。現代に飛ばされた時、偶然にもギンガ団によって助けられ、命の宝玉の欠片を移植されている。その時から、自身の名を『セイ』から『星』に変え、またギンガ団ではマーキュリーと名乗っている。

この時代に飛ばされた時からの相棒はバンギラスであり、彼の切り札でもある。ちなみにニツクネームは『タイラント』。

作者秘話

星は途中から出来たキャラです。本編のアウトライン中には影もないキャラで、とあるゲームをしていた時にひらめいたキャラです。キャラデザの時から、ギンガ団に入れようと考えていたため、名前も意外と安直でまんま星ほしから来てます。

まあ、おっさんの説明はこんなもんですね。

では、また本編でお会いしましょう。

番外編〱メイドと執事とツンデレと喫茶店〱（前書き）

完全なギャグですが、人によっては不快になる可能性があります。
ご注意ください

番外編くメイドと執事とツンデレと喫茶店く

気持ちのよい日差し。心地の良い風が公園に靡く。

そんな公園のベンチに彼らは座っていた。しかし、彼らの顔はこんな景気の良い日差しとは裏腹に暗かった。

「……………腹へらねえ？」

「……………減ったね。」

「……………すみません。」

3人の腹部から空腹を告げる音が鳴り、クロノが今の気持ちを口にした。

しかし、今の彼らにはその欲求を満たすための条件が無かった。

結論からいえば、早い話。

彼らは財布を盗まれた。

事の発端は数時間前。

この町にたどり着いた3人。

「さて、んじゃ必要なものだけ先に買っちゃまうか。」

「賛成。」

「ですね。」

そして彼らは、この街の商店街で買い物 시작했다。

この時、彼らの全財産はクリアスに預けた財布の中に有った。

そして、この商店街がまた混んでいた。無論一般人だけでなくトレーナーも多かった。

彼らが必要な物をレジに置こうとした時。異変に気づいた。

「ん？・・・ん？・・・え・・・無い・・・」

上着の隅々まで探すクリアスにクロノは不安を抱きながら聞いた

「・・・まさか。無いのか？・・・財布」

無言でうなづくクリアス。

その後数時間に探したが結局見つからず、今に至っていた。

「~~~~~！！誠に申し訳ございません！！私の不注意でこのような事態に！！」

クロノの前で土下座をして謝るクリアス。

これで何度目か。クロノももう止める事を止めた。今はそれをする体力すら惜しかった。

「あゝ。もう良いから。それより、今後の事を考えようぜ？」

「そうだよ。とりあえず、今は空腹を癒す事とこれからの事を考えよう？・・・いざとなればここでバイトして資金を稼ぐ事を考えなくちゃ。」

そして、彼は空腹を我慢して町に歩き出した。
目指すは食と資金を稼げる場所。

しかし、世の中そんなにあまいものではなかった。

「……見つからないね。ご飯。」

「アカネ。なんか口調が単調になって無いか？」

「今はそんな事に答えるのもどうでも良いくらいお腹減ってるの。」

よもや彼らの空腹は限界だった。しかし、幸か不幸か彼らのポケモン達はポケモンセンターに預ければ有る程度の空腹感を脱する事は可能である。つまりポケモン達は彼らほど空腹感に襲われる事は無いが、それも一時的なもの。

そんな時だった。3人に声をかける一人の女性。

「ねえ、君達。もしかして、バイト探してる？」

「ええ、まあ。」

クロノ達に声をかけた女性。

スラッとしたボディライン、セミロングの髪。

一言で言うならば、カッコいい女性だった。

「もし、良かったらウチでバイトしない？OKしてくれるなら、食と宿はタダで……」

「「「喜んで!」「」」

女性が全てを良い終わる前にクロノ達は、女性の発した『食』と言
うワードに反応して、快く承諾した。

そんな彼らを見た女性は、目を輝かせたクロノ達に多少引き気味で
話を続けた。

「そ、そんなにあっさり……。で、でも良いわ。ならウチお店で
詳しいお話ししましょう?……。ついでに何か食事を出すわね。」

「「「ありがとうございます!!!」「」」

よもや今の彼らを動かしている原動力は食だった。

暴食。

今の光景を言葉で表すならばこの言葉がふさわしかった。

上品に食べてはいるが、しかし食べるスピードは早食い競争を想わ
せるほどだった。

「ふう~~~~」。落ち着いた。御馳走様でした。」

両手を合わせて、女性に礼を言うクロノ。

「…………育ち盛りとは言え、3人で7人前を食べるなんて。ど
んな胃袋してるか見てみたいわ…………。」

彼らの食欲に呆れを通り越して、尊敬すら覚える女性。

「では、さっそくバイトのお話を。」

口を拭きながらクリアスが女性に向かって話す。

「そうね。初めに私の名前は、エミカ。ここ三軒の喫茶店のオーナーよ。」

今クロノ達が居るのは、三軒並んだ喫茶店の一番右端の店のスタッフルーム。
簡単に補足すると、店の外観は、全部落ち着いた外観であまり目立った様子の外観ではない。どこにでも有るような喫茶店だった。

「で、俺たちは何をすればいいんだ？皿洗いか？」

「クロノ。エミカさんに失礼だよ。」

クロノの無礼な口調にアカネが注意する。

「思った通りの子達ね。・・・貴方達には、喫茶店のウェイターをしてもらいたい。最近少し人出が足りないから、君達みたいな旅のトレーナーを雇う機会が増えてきてね。」

「ウェイターですか？構いませんよ。」

快くうなづく3人。

「なら、明日から働いてもらいたいから、明日までにこのこのマニュアルとDVDをみて仕事内容を覚えてね。部屋はこの奥の個室を

使ってもらって結構よ。働いてもらう場所は明日教えるからお願いね？」

と、いいエミカは3人の前に広辞苑と同等の厚さのあるマニュアルと何枚ものDVDを笑顔で渡した。

そして、クロノ達が床に着いたのは深夜を過ぎた頃なのは言うまでもなかった。

次の日の朝。

エミカに連れられ、アカネは昨日エミカと話した喫茶店の社員更衣室に連れられた。

「じゃ、アカネちゃんはここの喫茶店でウェイトレスをしてもらうわ。マニュアルは覚えてるみたいだから大丈夫よ。んで、これが制服ね。」

笑顔でアカネを見るエミカ。そして制服を受け取りアカネはそれに袖を通す。なんとも言えない表情で。

そして、スタッフに挨拶をしていよいよ、店が開く時間になった。

一人目のお客が入り、アカネの接客が始まった。

「おかえりなさいませご主人様。」

そう、アカネがバイトしているこの喫茶店は『メイド喫茶』だった。無論、制服はメイド服。紺のドレスに白いエプロン。そして、メイドカチューシャ。全てエミカの趣味だった。

「ご主人様のお席はこちらです。……何か有りましたら、何なりとお申し付けください。」

そして、一礼しアカネは奥に下がっていく。

そして、お客に見えないところで屈み、真っ赤になった顔を隠し小さい声で叫ぶ

「はずかし………!!!」

すると他にスタッフがアカネに声をかける。

「完璧だったよアカネちゃん。この調子で行こう！」

「うう………」

そして、アカネは羞恥心を押し殺し、バイトを続けた

一方クリアスは……

「おかえりなさいませ、お譲さま。」

女性客の手をとり、席まで案内し、座席を引く。

「こちらへどうぞ。」

「今日のケーキは何かしら？」

と、女性客は執事クリアスに聞き、クリアスはマニュアル通りに答える。

「本日は、リンゴのシフォンケーキに、ローズマリーティーにございます。」

「そうね……。では、それを頼むわ。」

「かしこまりました。」

そして、下がるクリアス。

ここに来る客は、全員が『お譲さま』としてふるまう客が多い。ゆえにこう言った口調の客が多い

そして、注文された物を持ち、『お譲さま』の前に並べるクリアス。すると、お譲さまは。

「バトラー。食べさせてくださる？」

「はい、喜んで。」

そして、シフォンケーキを一口大に切り分け、一口お譲さまの口に運び、優しい笑顔を見せるクリアス。

そんなクリアスを直視した、お譲さまは赤面し、鼻血を出す。

しかし、そんな状況もクリアスは慌てずに対処する。

胸ポケットのハンカチでお譲さまの鼻と口元を隠し、『お譲さま』が無様出ないようにする。

そんなクリアスを遠巻きに見ていたエミカは、小さくガッツポーズをとり独り言を

「私の読み通り！！良いわよあの子たち！！」

「オーナー、何やってるんですか？」

エミカの後ろを通るスタッフに突っ込まれるエミカ。

最後はクロノ。

しかし、ここの喫茶店は一味違った。

そして、この喫茶店に2人組のお客が。接客は無論クロノ。

「ふん！何だ貴様。また来たのか。俺は貴様の相手をしているほど暇ではないんだ。だ、だが来たんだ少しは相手をしてやろう。ついてこい。お茶位は出してやろう。」

ここは世にも珍しいツンデレ喫茶だ。

ここで補足しよう。ツンデレとは、普段相手にきつい態度をとるが、時折甘えるような態度をとる性格である。

「ここにでも座っている。・・・何か有れば俺に言え。暇なら着てやる。」

こうして、お客の接待が終わり、帰ろうとした時、ここの喫茶店の人気の秘密が

「なんだ。もう帰るのか……。もう少しいたらどうだ？いや、

お前にも用が有るんだな。だ、だがまた来い！待っているからな！
！」

またもや、物陰からクロノの接待ぶりを見るエミカ。しかし、鼻血を出しながら。

「い、良いわクロノ君！！最高よ！！！」

「オーナー、何やってんですか？」

こうして、3人の一週間のバイトは終わった。

資金も十分にたまり、資金を新たに町を出ようとした時。

「さて、お前ら行くぞ！！！」

「はい、ご主人様！」

「では、旦那さま行きましょう。」

「俺が居るんだ、この旅路は安泰だ！！！」

「くくくはあ〜」「くくく」

バイトが終わっても3人の口調はしばらく変わらなかった。
この3人の口調が治るのはしばらく先の話だった……

本当の意味での後書き

キシの最初の長編小説「ポケットモンスター 白と黒の想い」が無事完結しましたので、それを振り返る意味で、こんなものを作りました。

さて、何から語ろうかな？

では初めにクロノ達について。

何かで語ったと思いますが、クロノは他のポケモン小説のどの主人公より不安定気味の主人公です。

確かにポケモンバトルの才能は高いです。しかし、それは3年間の下積み期間が有ったからで、クロノ自身はそこまで特別では有りません。ごく普通の少年が、父親に認められたい、強くなりたい。そんな思いを胸に、努力しやがて、全てのわだかまりを取り除き、今に至ります。ですがクロノ個人ではここまで来れません。

そのために、アカネと言う「守りたい人」がいます。

アカネは、本編での描写は有りませんが、家庭環境はかなり荒んでいます。父親は、研究に没頭。アカネを見ようとしなく。だからアカネは誰かに認められたいがために、なんでも屋をしています。

仕事をして終わった時、依頼人からもらえる感謝の言葉だけが、アカネの存在意義でした。

しかし、クロノはどんな時でも彼女を守ろうとしました。初めはクロノも何にも意識はしていませんでした。しかし、アカネにとってそれは、生きていた中で、初めて感じた想いだったので。

だから、アカネはクロノに惚れたのでしょね。

クリアスも、過去はかなりヘビーです。まず人ですら有りません。

作られた命。誰からも認められず、ただのモルモット。いえ、それ以下の存在でしたが、養子として過ごした家の祖父と祖母が初めて彼を受け入れてくれました。祖父母はクリアスの正体を知るか知らずか分かりませんが、彼に彼が「生きる意味、目的」を教えてくださいました。

そして、出会った自然保護協会。自分を助けてくれた悪人のアオギリに恩義を返すため、彼は裏で手をけがしました。それが彼が知る唯一の生き方でした。

ですが、クロノとアカネがそれを変えてくれました。こうして、クリアスは、過去の自分と決別し、新しく生きる道を見つけました。

星。通称おっさん。神の逆鱗による戦いで自分のいた時代から、転移し。そして気が付いたら知らない時代。さぞ絶望したでしょう。そしてポケモンを。神を恨んだでしょう。ですが、クロノ達をみて、彼は変わりました。恨んで進む道より、新しい道を選んで歩く事を。そして、この時代で新しく生きる事を。

さて、なんかゲストキャラで造ったミヨさん。ですが、「裏切りの黒」では見事メインキャラに恥じない活躍をしてくれます。つと。脱線脱線。

ミヨはクロノの昔の知り合いを考えてたら出来ました。

ミヨの行動原理はクロノへの愛です。知り合った時からクロノを好きで、その胸の内を告げられず今に。しかし、クロノの横にはアカネが。複雑でしょうね。しかし、クロノが幸せであつたら良いと考え、2人の事を見守る事にしました。

さて、ではジムリーダー組。

これは完全に趣味です！

リメイク版金銀のヤナギとシジマ、ミカンとアカネ。あと、シロナとキョウウはガチです。

っ！かシロナと初めて戦った時、本気強かったあ〜。

ワタルをロケット団の元幹部にしたのは、ネット上で良く「チート使い」と聞くので、ならポケモンの世界で再現するには？と悩んだ結果こうなりました。

ん？ツクシが喋ってない？……………あ！本当だ！！

失礼だがこいつ、マジでゲーム中も影薄すぎ。虫使いはDPのリョウだけでいい気が……………。

次はポケモン達。

クリアスは本当はエンペルトではなく、ラグラージにしようかなと思いましたが、ナイトっぽくないので却下しました。

クロノの手持ちは、キシが実際に使っているポケモン達です。

名前もまんま。映画の「キングアーサー」に魅入られ育てて、今でも現役で戦っています。

その他のみな様は、被らないように攻略本を見ながら、適当に考えました。

アルセウス等の伝説組は、以前から疑問に思ってた「なんでこいつらゲーム中一匹だけなんだっぺ？」と悩んでいたのを「世界の何かを司る」という形で、疑問をこじつけてみました。

世界観は、意外と適当です。

ただ、ゲームやアニメより、劇場版軸に合わせて有ります。ですから、アルトマーレやミチーナ。ファウンスなどが出ています。

ん〜。振り返ると、意外と反省点が多いですね。ポケモンものならもう少しバトル描写が多くても良かった気がします。ですが、これはこれで良かったとも思えます。

ここで個人ネタ。

実は、アカネがクロノ達を歌で止めたのにはキシのプライベートでの事件を元にしていきます。

事件の当事者達に読んでもらいOKサインをもらい投稿しました。

ポケモン白黒はこれで終わりですが、新しい物語もまた始まります。

今度は、どんな結末になり、どんなものが見えてくるのか。

それは、私の小説を読んだ人個人によつて様々です。

良かったと思う人、嫌いと思う人、それこそ、十人十色。

ですが、それでも何かが心に残ってくれば幸いです

では、また次のお話で。

クリスマス大感謝祭！異世界の果てまで行ってQ！！（前書き）

今回は多数の方とコラボをいたしました。

義成先生、ジエイ先生、春野ツバサ先生、栗太先生、焰椰來氷先生、キヤット先生、プラネット先生。この場をお借りして再度、感謝の言葉を言わせていただきます。コラボに御協力ありがとうございます。

クリスマス大感謝祭！異世界の果てまで行ってQ！！

はいこんにちは、こんばんわ、お久しぶりです、始めまして。

この度は、たくさんの方たちとコラボいたしましたして、日ごろの感謝を込めまして、プレゼントを配ろうと思います。では、みなさん準備はよろしいですか？

クロノ（白黒）「チョイ待ち作者。俺たちの着ている服装は何だ？」

ん？クリスマスらしい格好だとは思っよ？

クリアス「なぜ、男性陣はトナカイの着グルミに赤鼻のアクセサリ！なんですか？」

星「そうそう。これじゃおっさんの色気がだね・・・」

クロノ（虹）「違う！男共なんてどうでもいいんだよ！！ハクリが何でサンタなんだ！！いや、似合わないとかそういう問題じゃなくてだな、これを機にハクリに変な虫とかファンができれば・・・」

アカネ（虹）「はいはい。黙れ。」

ピシッ！！（手刀で一閃）

クロノ（虹）「うっ！！」

アカネ（虹）「では、私達親組はこれで。皆さまによろしくお伝えください。」

ズルズル（気絶したクロノ（虹）を引きずり退散）

ミヨ「……未来のクロノ様はあんな親ばかになるんですね。」

アカネ（白黒）「て言うか、私あんなに的確に手刀ができるようになるんだ……。」

ハクリ「それよりさ。女の子組のサンタ服ってかわいいよね。スカートサンタさん！」

ソウマ「せめて、男性陣もサンタが良かった……。この着ぐるミ少し熱いよ。」

さて、ではクリアスくん。みなさんには招待状をちゃんと届けてくれませんか？

クリアス「もちろん。ミュウツーと一緒に作り、味の有るメッセージカードをちゃんとアルセウス神に届けていただきました。」

クロノ「……味の有るメッセージカードか。」

さて、プレゼントも用意したし、移動用の車も……

一同「まてええええい！何でソリじゃねえんだよ！！！」

黙れ！！ソリで異世界に行けるか！！貴様ら映画「バックトゥーザ・フューチャー」を見た事無いのか！！そのノリだ！！ちなみに車はオーブンカーね。

星「で、運転は？」

もちろん、星トナカイが……

星「ですよね……。一応免許も有るしね。」

クロノ（つーか、ポケモンでソリ引けばいいんじゃないかね？）

アカネ（そっちの方が味が有るよね）

クリアス（ですよね）

ええええい！うるさい！さっさと乗れ！そしてプレゼントを配って
こい！！

クロノ「言い方はむかつくが、感謝祭だ。行くぞみんな！！」

一同「はい」

いってらっしゃい（ハンカチひらひら）

クロノ&クリアス「ニヤリ」

アカネ&ミヨ「ニヤリ」

星「ほんじゃ、エンジンつけて行きますか。」

ブロロロロ……

クロノ「今だ！ハクリ、ソウマ！！」

ハクリ「アラホイサツサ!!」

ソウマ「ごめんなさい、ごめんなさい!!」

え？

ぎゅ！（キシの尻尾を掴む音）

ちよつ！マジでイテえから！ちよ、マジで！ほんと！ぎゃああああ
あああああああ!!

星「ほんじゃ行きますか。………で、最初はどこの世界よ？」

ミヨ「そうですね……。義成先生の『ポケモンストーリー』神々の息吹』のケイ君たちね。」

〈神々の息吹の世界〉

ライフ「……。なあ、やっぱりなんか怪しくね？このクリスマスカード。」

ケイ「借りに敵のワナだとしても、虎穴に入らずんば虎兇を得ずです。俺達が力を合わせればなんとかなるさ。」

ロキ「ですが、なんでクリスマスにこんな事をするんでしょうね。ご丁寧に切り抜きのメッセージカードまで送ってきて。」

ケンイチ「……新種のポケモン？」

ケイ「でも、なんか猫みたいにも見えるぞ？バンダナ巻いて、メガネもつけてるけど……」

ハクリ「一応こんなんでも、私たちのお話を書いてる作者なの。はい、これはクリスマスプレゼントです。」

ソウマ「はい、ロキさん。メリークリスマスです。」

ロキ「ありがとうございます。……ところでキミ。その着ぐるみ熱くない？」

ソウマ「熱いです……」

キシ「えつと後、今まで、御愛読ありがとうございます。これからも御愛読のほどよろしく願います。それと、今後のますますのご活躍を願っていますと、義成先生にお伝えください。(ペコーリ)」

ケイ「はい。必ずお伝えします。それと、メリークリスマス。」

一同「メリークリスマス！」

キシ「今回は忙しい中、お集まり頂きありがとうございます。」

ミヨ「作者さん。そろそろ次の世界に行きますよ。」

キシ「はい。では失礼します。」

ブルルルルルル「……………」

ケイ「……………礼儀正しい猫だったな。」

ロキ「異世界にはあんな方がいるんですね。」

星「よつし。次はどなたの世界？美女が一杯の世界がいいけどなあ」

アカネ「最低……………」

クリアス「次の世界は、ジェイ先生の『ポケットモンスター ツイスター』のライム君達です。」

クロノ「おい。今度はどんなメッセージカードだ？」

クリアス「いろいろ作りましたからね。真面目な物から、ダイニングメッセージみたいな物まで。」

キシ「自分で作ればよかった……………」

ミヨ「見えてきましたよ。」

〈ツイスターの世界〉

ライム「で、手紙の指示のままここに来たけど、信じていいのか？
こんなダイングメッセージみたいなクリスマスカード。」

コウキ「ですが、これが善意で送られたものなら、無視するのも失
礼ですし……」

サイカ「でも、もう少し書き方つてもものがあるよね。何も、ダイ
ングメッセージみたいなみたいになくても……」

ヒビキ「でも、この『白と黒の想い』ってたしか……」

コトネ「うん。こっちの『虹に憧れる者達』も確か……」

ブルルルルルルル

一同「メリークリスマス……！」

星「わお！ここには女の子がいるじゃん！……はじめまして
お嬢さん方。私の名前は星。そう星のように輝き、世界の女性を照
らすナイスミドルな男です。」

ハクリ「でも、格好はトナカイだけどね。」

ヒビキ「えっと、どちら様ですか？」

キシ「申し遅れました。私はキシと……」

ライム「を！猫が喋った！！すげー！！」

サイカ「すごい！この子もポケモンの一種？」

キシ「えっと、私はキシと申しまして、この度クリスマススを記念しまして、今までお世話になっている皆様にプレゼントをお贈りしています。事前にクリスマスカード（かなり不快な）が届いていると思います。」

コトネ「はじめまして、キシさん。遠路遙々ありがとうございます。」

キシ「いえいえ、こちらこそ。」

星「なにあそこは和んでるんだ？」

ミヨ「あつちはあつちで火花を散らしていますよ。」

クロノ「お前がライムか。前の大会では惜しかったな。」

ライム「まあ、勝つって気持ちでサイカが勝ってたんだろ。……それよりお前強いみたいだな。どうだ一戦？」

クロノ「ふっ。おもしれ……。」

アカネ「ストゥープ！今回はみんなにプレゼントを配るのが目的なの。だから、今回はバトルは無し！という事で、これクリスマスプレゼント。」

ライム「……おう。ありがとう。」

サイカ「・・・何で少し顔が赤いの？」

ライム「いや、サンタ服が悪いんだって・・・」

アカネ「？」

クロノ「・・・・・・・・」

クリアス「ええ〜では、そんなライム君には今女性陣が来ているサンタ服（女性用）をついでに・・・」

ライム「いるかよ！！つーか着れないし。」

クロノ「サイカにでも着てもらえばどうだ？」

サイカ「なに言ってるのよ！」

ミヨ「えつと・・・そろそろ次の世界に・・・」

キシ「では、今回はこれで。ジエイ先生にこれからもますますの活躍を期待していますとお伝えください。」

ヒビキ「はい、確かにお伝えしておきます。」

一同「では、メリークリスマス！！」

ブロロロロロロ「・・・・・・・・」

ライム「嵐みたいなのだったな・・・」

コトネ「キシさんの手。肉球だった……」

ライム「あれも着ぐるミの一種か？」

クリアス「とりあえず今のところは順調ですね。」

クロノ「お前のメッセージカードをみてどうしてその言葉が出る？
怒らないから先生の顔を見て話してみようか？」

ハクリ「で、次はだれの世界？」

星「ん〜。……何だ野郎しかないのか。おっさんのテンション
下がるわ〜。」

キシ「ちよっ！おっさんマジで失礼だからその発言！！」

ミヨ「次は、キャット先生の『リュウの戦いーポケモン達を助ける
ために……』の世界よ。」

〈リュウの戦いの世界〉

リュウ「……とっつぁんにもこのクリスマスカードが届いてるの
か。……差出人は、『白と黒の想いー同』。だれだ？」

トレン「ん？こいつらの名前。どっかの誰かが話してたな・・・」

キーーーーー（ブレーキ音）

バン（ドアを開ける音）

一同「メリークリスマス・・・」

ドオン！（発砲音）

リュウ「誰だ貴様ら!?!」

星「わお・・・熱烈歓迎?」

ハクリ「んな訳ないでしょ!」

キシ「ちょ・・・。お前ら、俺を盾にすんなよ・・・」（ゴム弾が顔面にめり込んでいる）

トレン「ほお、喋るネコか？珍しいの。」

バシャーモ「ポケモンの一種か?」

サーナイト「でも、ポケモンにも猫にも見えないわよ?何より、バシダナとメガネをかけた猫なんて。」

キシ「えっと、クリスマスカードを贈った者です。この度、クリスマスを記念して、日ごろの感謝をこめてこうしてプレゼントを配りながらお礼まいりに回っているんです。」

リュウ「なるほど、そういうことか。すまないな急に発砲して。」

ソウマ「わー、ボーマンダにチルタリスだ。それにルカリオも居る。

「
クロノ「そう言えば、リュウさんのポケモンと俺のメンバーっなんか似てるな。バシャーモに、ルカリオ。ボーマンダ。なんか親近感わくなあ」

リュウ「ポケモンは無数にいる。たまたまこういうことも有るだろ。

「
ハクリ「では、クリスマスプレゼント！はいトレンさん。メリークリスマスです！」

トレン「なんだか、孫にもらうみたいだな。」

ソウマ「やっぱりドラゴンタイプのポケモンはすごいですね。なんていうか、こつ威風堂々としてるといっつか威厳が有るって言うか・

「
サーナイト「あら、貴方達の事すごく褒めてるわよ？」

ボーマンダ「いや、そこまで言われると、照れるな。」

チルタリス「うんうん。」

ルカリオ「……………」

ガウエイン「……………」

星「なんか、あそこのルカリオ組は見つめ有ってるし……………」

ルカリオ&ガウエイン「ガシ！（握手）」

ミヨ「何かを分かりあったみたいですね。」

キシ「この度、皆さまのご協力でここまで来れました。今までもこれからもよろしく願います。キャット先生にも、これからの御活躍を祈っていますとお伝えください。」

トレン「あいよ。」

一同「では、メリークリスマス！」

リュウ「メリークリスマス。」

バタバタ……………ブロoooooooooooooo……………

リュウ「……………結局、あのキシって猫は何だったんだ？」

トレン「さあ？」

ルカリオ「少なからず、ポケモンでは無いかと……………」

キシ「ふー。メッセージカードがあんなんだから、どうなる事やら
と思ったけど一応は順調だね。」

ハクリ「だね。この調子でどんどん行こう!!」

ソウマ「次の世界は……。春野ツバサさんの『ポケモ不思議のダ
ンジョン』時の探検隊・闇の探検隊』のピカチュウ達の世界です
ね。」

星「では、全速前進だ!!」

クリアス「くどいぞ海〇!!」

アカネ「はあく。もう突っ込む気も起きないわ・・・」

↓時の探検隊・闇の探検隊の世界↓

ピカチュウ「んぐ。」

ナエトル「まだ、ふに落ちないのピカチュウ？」

ピカチュウ「うん。・・・なんで、人の言葉でクリスマスカード
なんて来たのか。それがなんか不思議で・・・」

ブロロロロロロロロ r.....

ピカ&ナエ「ん？」

一同「メリークリスマス!!」

ピカ&ナエ「わああああああ!!」

キー（ブレーキ音）

ハクリ「どうもこんにちは。クリスマスカード送った者達です」

ピカ&ナエ「（あいた口がふさがらない）」

クロノ「おい……生きてるか？」

ナエトル「……ピカチュウ。これがニンゲン？」

ピカチュウ「……うん。」

ソウマ「わーピカチュウだ！かわいい！」

ピカチュウ「こんにちは。」

ハクリ「ナエトルだ。私初めて見た。」

ナエトル「ど、どうもはじめまして。に、ニンゲンって初めて見るから、き、緊張しちゃうな。」

アカネ「大丈夫だよ。人間もポケモンも何にも変わらないから。はい、メリークリスマス。」

ミヨ「星さん。情報だとあのピカチュウは女の子だそうですよ?」

星「流石に、ポケモンの女の子はちょっと……」

クリアス「おや？我が作者は何処に？」

バツシャバツシャ（海から出てくる音）

キシ「ふー。危うく溺れる所だったぜ……（頭から海草をたらし）」

ナエトル「ぎゃーお化け!!」

ハクリ「天誅!!」

キシ「ぎゃー!!」

キシ「うぐ。踏んだり蹴ったりだ。途中海に落とされるし、助かったと思えば蹴られるし。」

ピカチュウ「で、この人(?)は誰？」

ソウマ「僕たちのお話を書いてくれてる作者さん。君達で言うと、春野ツバサ先生だね。」

キシ「えっと、改めてこんにちは。この度は、私のお話を支えて下さってありがとうございます。今回はそんな皆様のクリスマスを記念しプレゼントを配りつつ、今までのお礼をしに参りました。」

ピカチュウ「これは丁寧だ。」

キシ「いえいえ。」

クロノ「つーかこいつ、少し磯臭いぞ？」

アカネ「さっきまで海草まみれだったからね。」

ナエトル「この人もニンゲン？」

ハクリ「少し違うけど・・・。」

キシ「では、今まで御愛読ありがとうございました。春野ツバサ先生に、今後ますますのご活躍を願っていますと、お伝えください。」

ピカチュウ「はい。」

星「んじゃ、そろそろ行こうかね。」

一同「では、メリークリスマスー!!」

ピカ&ナエ「メリークリスマス」

ブロロロロロロ「r・・・」

ナエトル「あの、キシって人(?)もニンゲン？」

ピカチュウ「多分違う生き物だと思う・・・。」

クロノ「あゝ磯臭い……。」

キシ「やかましいぞ元主人公！」

クロノ「あん？『裏切りの黒』ではまだ現役だぞ！？この磯臭い猫モドキが！」

キシ「あん？その顔を縦じま模様にしてやんよ！」

アカネ「もう！！二人ともいい加減にしなさい！！！」

2人「すいません」

クリアス「次は、誰の世界ですか？」

星「栗田先生の『ポケットモンスター - 新たなる冒険者』の世界だよ」

ハクリ「……。なんか一個前の仮面ライオンみたいなフレーズになってない私達。」

ソウマ「これが、栗太先生の世界か……。みたいな？」

キシ「pokemonライド！……。ってか？」

「新たなる冒険者の世界」

ユウキ「で、この差出人の名前に覚えがないクリスマスカードに俺たちは従ったけど、どうするよ？」

ハルト「ん〜。少し怪しいですけど、差出人の名前をどこかで聞いたような……」

アヤカ「ちょっと待って……。何か聞こえない？」

ブロロロロロロロロロロ……

クロノ達「メリークリスマス！！」

ユウキ「を！なんだこいつら！？」

アカネ「どうも、クリスマスカードの差出人です。クリスマスプレゼントを配りに参りました。」

ハルト「それは、どうもありがとうございます。」

クロノ「ほい！クリスマスプレゼント。」

ユウキ「サンキュー。ところで、お前達どうやってここに来たんだよ？そんな車で来るにはちょっと無理があるような……」

キシ「まあ、それは。作者同士の『大いなる意思』って奴でござんを」

アヤカ「人形が喋った！！」

キシ「……もうそういうリアクションには慣れました。」

ソウマ「えっと、この猫モドキは僕たちの話を書いてくれている作者さんです。人の姿では有りませんが、無害です。（頭の中以外は）」

キシ「おい、クロノ。ソウマの教育間違ってんぞ……」

クロノ「いいや。間違っていないな。うん。未来の俺の教育は間違っ
てなかった。」

キシ「貴様アアアア!!」

ユウキ「……で、結局何の生き物なんだよ。」

アカネ「と言う訳で皆様に、クリスマスプレゼントを配りに参りました。」

アヤカ「そのサンタ服もかわいいね。」

アカネ「いいでしょ。なら、一着あげるよ。」

アヤカ「ありがとう!!」

星「うん。未発達の胸もなかなか魅力的なお〜」

アヤカ&アカネ「天誅!!」

星「ぐえ……！」

クリアス「愚かな人です……。」

ソウマ「どうぞ、クリスマスプレゼントです。」

ハルト「これは、どうもありがとうございます。」

キシ「これまで御愛読ありがとうございます。今後のますますの活躍をお祈りしていますと、作者様にお伝えください。」

ユウキ「おう。またなクロノ。次はまともな格好してこいよ?」

クロノ「それを言うな……。」

ミヨ「では次の世界に行きましょう。」

一同「最後にメリークリスマス!!」

ユウキ達「メリークリスマス」

ブロロロロロロ「……」

ハルト「……結局キシと言う人(?)は何だったんでしょうね。」

ユウキ&アヤカ「さあ?」

ソウマ「後何個の世界ですか？」

ミヨ「そうですね……。あと二つの世界ですね。」

クリアス「世界の破壊者キシ。その瞳に映るものは過去か未来か？」

クロノ「見上げる星、それぞれの歴史が輝いて」

キシ「黙れディケード共が！今年の映画見たのかよ！？」

星「おっさんは見に行ったよ。」

アカネ「なんで男の子って特撮が好きなんだろうね？」

ミヨ「さあ？男性にしか分からない、世界が有るのではないでしょうか？」

ハクリ「次はだれの世界？」

ソウマ「焰椰來氷先生の『ポケットモンスター - 世界と伝説の物語』の世界だよ」

クロノ&クリアス「僕らも旅の途中で九つの道がいつか重なって」

星「……いい加減歌うの止めない？」

「世界と伝説の物語」

優羽「楽しみだね。サンタさんなんて。」

璃和「のんきだなあ。こんな誰かも分からないクリスマスカードもらって。まあ、ホイホイ来ちまった俺も同類か。」

遊諳「でも、ほんま誰なんやろうな？サンタって？差出人は『白と黒の想い一同』。誰やねん！」

灰音「と言うか、こんな昼間にサンタなんて・・・ん？」

ブロロロロロロロロロロ・・・

一同「メリークリスマス！！」

遊諳「を！なんやこいつら！」

ハクリ「クリスマスカードを贈ったサンタとトナカイ達です。クリスマスプレゼントを配りに来ました！」

クロノ「メリークリスマス。はい、トナカイからのプレゼント！」

遊諳「あながと。・・・ぷつ。おもしろいなその格好。」

クリアス「まあ、奇怪な格好だとは思いますが。」

ハクリ「はい。お兄ちゃん。小さいサンタからのプレゼント。」

灰音「はい、どうも。」

ミヨ「それとも、私の方からもらう方がいいかしら？」

灰音「え、いや、それは……」

星「いやー戸惑う青少年の姿は面白いねえ」

優羽「おじさん。悪趣味だよ。」

星「……お譲ちゃんもえらくストレートに物を言うね。最近の女の子はどうしてこう気が強いのかねえ」

遊諳「で、このポケモンともつかん生き物はなんや？お前たちの世界にはこんな生き物がわんさかおるんか？」

キシ「いえいえ、私はキシと申します。彼らのお話を書いている者です。貴方達で言う焔椰來氷先生と同じ立場です。」

優羽「肉球が有る。これも着グルミ？」

キシ「一応生身です。今まで御愛読なさってください頂きありがとうございますとございます。今後の焔椰來氷先生のますますのご活躍を祈りますとお伝えください。」

優羽「分かりました。今度有ったらお伝えしておきます。・・・良
いクリスマスを。」

クリアス「おや、先に言われてしまいましたね。」

一同「では、メリークリスマス！」

ブロooooooooooooo r.....

優羽「いろんなもの置いてったサンタさんだったね。」

遊詣「おもしろいやっちな。あいつら。」

璃和「確かに面白い奴らだったな」

キシ「さて、残るは最後の世界。プラネット先生の『ポケダン - 空
の探検記 -』と『金と銀の翼』の世界です。」

クロノ「記憶に新しいな。あいつは元気かな・・・。」

クリアス「ええ。会うのが楽しみです。」

星「ほんじゃ、行きますか。」

「空の探検記・金と銀の翼の世界」

デルタ「さて、こんな場所に来てみれば、すごい顔ぶれで……。」

ミュウツー「全くだ……。」

シギ「なんでここに居るの!?!」

ミュウツー「ふっ。知り合いからの招待状だ。むげには扱えまい。」

デルタ「くう〜!」

ゴールド「えっと、なんか向こうのポケモン達はすごい険悪なムードなんだけど……。」

ヨウコ「まあ、知り合った仲だし、来てみたけど。」

ヨウイチ「でも、まだ来ないな」

ヨウコ「……何か近づいてくる音が……。」

ブロロロロロロロロロロ「……。」

一同「メリークリスマス!!!」

デルタ「来た来た……って、一体何ですかその格好!!!」

クロノ「聞くな。つーか聞かないでくれ。」

ミュウツィ「昨日散々我を貶した報いだ。」

クロノ「いや、俺は何も言っていないし……。」

星「よう！って今回はミュウツィって呼ばせていただきまわ。」

ハクリ「やつほぐ。ミュウツィ、メリークリスマス。」

ミヨ「ダメよハクリちゃん。このミュウツィは危険よ。向こうのお兄さん達にプレゼントを配りに行きましょ。」

ミュウツィ「……。」

キシ「内輪ネタだなこれ。」

ソウマ「メリークリスマスです。はいこれプレゼントです。」

ヨウイチ「どうもです。……今日はお父さんは？」

ハクリ「えっと、カクカウシカジカ。という訳で、今お母さんと一緒にいます。」

ヨウコ「なんて親バカな人……。」

ミヨ「それがまた良いんですよ。はい、プレゼント。」

ヨウコ「どうも（一体何を食べればこんなに大きく。主に胸）」

ミヨ「どこ見てるんですか？」

ゴールド「えつと星さん。なんですかこの本は？」

星「ん？なに健全な青少年に、おっさんから大人に階段を上るた・
・・・」

キシ「なにやってんだよ！！」

ビシッ！！（ローキック）

星「痛い！」

キシ「ふー危なかった……。危うく出入り禁止になりかねなかった。」

ゴールド（キシさんって猫だったんだ。でもなんでバンダナにメガネ？いや寧ろ何で猫？）

キシ「何か私の顔に着いてますか？」

ゴールド「い、いいえ」

ミュウツー「・・・鬱だ、死のう・・・」

キシ「をい！！お前ら何やってんだよ！！」

クリアス「いえなに、先刻のお話を繰り返してたら、またこんな状態に。」

デルタ「すごい……。ミュウツーに膝をつかせた!!」

エネ「彼らは救世主かも!」

シギ「本当にすごい……」

クロノ「なんか哀れになってきたな……」

キシ「えっと、ミュウツーが私沈んでいます。私から一言。今までの御愛読ありがとうございました。そしてこれからもよろしくお願ひします。また、プラネット先生のますますのご活躍を祈っています。と、プラネット先生にお伝えください。」

デルタ「おう。任せてくれ。」

ミュウツー「……確かに承った。それと、もうあの事については触れないでくれ。」

星「ヤダ!!」

ミュウツー「貴様!!」

クロノ「さて、今回もダメだったが、次はバトルしような。」

ヨウイチ「分かった。未来のお前にもよろしくな。」

クロノ「おう!じゃあな。」

皆様ますますのご活躍を祈らせていただきます。

クリスマス大感謝祭！異世界の果てまで行つてQ！！（後書き）

キシのコラボ企画第二弾いかがでしたか？様々の先生方のご協力の元、完成した今回のお話。日ごろキシの話を読んでいただき感謝しています。

コラボにご協力いただいた先生方に再び感謝の言葉を送らせてください。

私のようなもののコラボ作品にご参加いただき誠にありがとうございます。

各先生方のますますのご活躍を期待しています。

お茶濁しな意味で今後の展開を（前書き）

大分楽になりましたので、番外編を

お茶濁しな意味で今後の展開を

初めにこんな絵を投稿してみます。

> i 3 9 6 5 — 3 7 5 <

なんとなく、ゲーム版ポケモン凶鑑風に大きさ比べ風に書いてみました。

この絵から皆さまが何を御想像するあは自由です。ええ、一杯想像してください！

今後の『虹に憧れる者達』に大きく関わる画像（の予定）です。

察しの良い読者様はもうお気づきだと思えますが、何も言いません。

後、体調が回復の兆しが見えたので、本編でなく番外編を投稿いたします。

.....。

余ったな。

なら、次回予告を。

シャッターを切る音に誘われ、ハクリ達は懐かしい人物に出会った。記者を目指し、父親とは違うやり方で世界を変えようとしている少年。

彼のレンズに映る世界はどう見えるのか？

次回『ポケットモンスター』虹に憧れる者達』

「真実を告げるため」

続いて、『裏切りの黒』

荒野に吹く一陣の風。

過去を悔いた青年は、何を思い荒野を駆ける。

腕につけたスナッチマシンが彼に何を語るのか？

次回『ポケットモンスター』白と黒の想い外伝・裏切りの黒』

「奪う機械・真の意味は所有者の意思で決まる」

では、これで。

キャラ紹介〜ソウマ編〜

今回は、『虹に憧れる者達』の主人公の一人・ソウマ君の紹介をします。

ソウマ「ど、どうもよろしく願いします」

では早速行きます。

ソウマ・S・ウィールアス

性別・男

年齢・10歳

所有ポケモン・今現在3匹

<プロフィール>

クロノとアカネの間に生まれた長男。性格は温厚で人を怒鳴ったり、怒ったりすることは少なく、ましてや人を殴る事はした事が無い少年。クロノが英雄と呼ばれている事を鼻にかける事なく、トレーナースクールに通い、性格も押してかクラスでは友達が多い。また、努力しなくてもクラス一の成績を維持しており、ハクリいわく「天才肌」とのこと。しかし、本人はいたって努力家のため、クラスメイトとの成績の差は広がるばかり。そのため、一部の者からは嫉妬に近い眼差しを受け、一時いじめを受けていた。

トレーナースクールではコーディネーター科を専行し、自身はコーディネーターになる事を強く望んでいる。憧れの人は、クリアスであり、クロノと同じくらい尊敬している。

本編での描写は無いが、耳あてのついたニット帽を着用して旅に出ている。

クロノに似たのか、かわいい物が好みである。

ポケモンは、オタチ、エアームド、ヒトカゲの3匹が今のメンバーである。
オタチはかわいい部門。エアームドが、カッコいい部門。ヒトカゲはたくましい部門を担当してもらおう予定である。

> i 4 1 8 0 | 3 7 5 <

作者秘話

ソウマはもともと、クロノのキャラデザの時に浮かんだ案の一つです。

特に参考にしたものは有りません。強いて挙げれば、ポケスぺのルビーですが、ルビーほど美に対しての執着は有りません。

ソウマのプロフィールはこんなもんな。

ソウマ「僕ってポケスぺのルビー君が参考なんだ。ついでにイラストがつけられてる！何で横向きは聞かないけど……。」

おう。書いたから投稿しちゃった。読者様のイメージにそぐわなかったらごめんね。

キャラ紹介〜ハクリ編

はいこんにちは。今回は、イケイケドンドン、じゃじゃ馬娘の異名を持つハクリちゃんの・・・

ゴスっ！！

ハクリ「じゃじゃ馬娘言っな！！」

だってクロノは言っただじゃん・・・

ハクリ「お父さんは良いの！！」

このファザコン娘め（ボソ）

ハクリ「ギロ！！」

で、では、紹介はじめまあす。

ハクリ・S・ウィールアス

性別・女

年齢・10歳

使用ポケモン・現在3匹

<プロフィール>

クロノとアカネの間に生まれた長女（戸籍上ソウマの方が先に生まれたためソウマの妹という立場）

性格はクロノとアカネの明るい面を集めたようなポジティブシンキングな性格。考えるより先に体が動く。頭より先に手が出る。考え

るだけ時間の無駄がモットー。
アカネ譲りの長い髪をツインテールにしている。しかし髪の色はクロノの遺伝で茶色である。
コンテストなどには興味は無く、クロノのようにバトルにしか興味が無い。

将来はクロノの後を継いで、アルトマーレジムのリーダーになりたいと思っっている。しかし、クロノはハクリが自分を目標にしすぎている事に少し不安を感じている（ハクリにはハクリにしか歩けない道を歩いてほしとクロノは考えている）

前置きでも振れているが、かなりのファザコンである。自慢のツインテールも毎朝クロノが整えている（アカネがやると酷い事になる。もっとも三つ編みならば綺麗になる）反面、いつか本気でクロノと戦いたいと願っており、日ごろからクロノの必勝法を研究している。年頃の女の子らしく、ミヨにそっち方面の相談をひそかにしている。

作者秘話

秘話？そんなも無い。単純にバカ、もとい明るい女の子を考えてたら出来た。

> i 4 1 8 1 — 3 7 5 <

イラストを追加しました。横向きですが、御愛嬌。

ハクリ「バカって何よ!!」

だってバカじゃん。スクールの学部での成績、下から何番目よ？

ハクリ「うっ!.....10番目。」

こないだのテストの点数は？クロノに言ったの？

ハクリ「……言ってない。」

クロノ「ハクリ、ちょっとこっち来なさい。」

ハクリ「！！お、お父さん！！！！」

お説教タイムスタート！！

ではまた次回に会いましょう。

キャラ紹介〜アルテス編〜

え〜今回は新キャラアルテスの紹介です。

アルテス「…………おい作者。最近、キャラ紹介多くないか？それより、キャラ紹介するなら、先にミヨさんとか…………」

お黙り！新キャラ！黙って紹介なさい！！

アルテス「……………釈然としないが。」

アルテス・キヤスパニア

性別・男

年齢・11歳。

所有ポケモン・現在2匹（ダブル、アブソル）

<プロフィール>

クリアスの一人息子。ハクリ達とは、幼馴染に当たり一つ上の年齢である。ハクリ達より先に旅に出ており、その年のホウエンリーグではベスト9にランクインしている実力者。

技単体で攻めるより、技と技を複合して出す事を得意としている。

（アブソルの『無影』が良い例）

高いバトルの実力を持っているが本人は、記者になる事を望んでいる。そのため、旅にはデジタル一眼レフを持って、世界を撮り続けている。

鞆の他にカメラ専用の鞆を持ち歩いている。この鞆にカメラを指し込むと、自動で写真を現像してくれるハイテクな機能付き。

背格好は、釣り目に逆立った金髪。大方、カメラ好きとはかけ離れた風貌を持っている。

町でカメラを乱射している所を、警察に連行された過去がある。それ以来、乱射は控えているが時折、不審者として通報される事がある。

人と話すとき「……ああ。」と少し間を置く癖があるが、別に故意でやっている訳だはなく、寧ろ人見知りをする性格から来ている。

性格は、見た目と裏腹に、おとなしく人見知りをする性格。

作者秘話

え？話し振る？無いよ元ネタなんて。単純にカメラと釣り目でキャラ考えてたら出来た。

> i 4 1 7 9 — 3 7 5 <

イラストを追加しました

はいおしまい。

アルテス「……えらく安直に完成したんだな。」

うん安直。

では、これで

専門用語集

こんにちは！今回のポケモン灰色は、『虹に憧れる者達』『裏切りの黒』『白と黒の想い』で出てきた専門用語を纏めてみました。ではどうぞ。

『円卓の騎士の長』

伝説のポケモン達がクロノを指して言う名称。理由は、クロノ、アカネ、クリアスとクロノのポケモン達が、円卓の騎士たちの転生した姿故。クロノの過去生は円卓の騎士の長である為彼らから、今でもこの名称で呼ばれている。余談であるが、トリスタンであるマニユーラとミヨは前世は同じである

『ウィールアス・カンパニー』

ケルアが社長を務める大企業。社のキャッチコピーは『貴方の初めから終わりを華麗に彩るウィールアス・コーポレーション』。キャッチコピーに偽りはなく、本当に揺り籠から棺桶、さらには墓石まで扱っている。一番の売れ行き商品はトレーナー関係の商品。

『ポケモン自然保護協会』

アオギリが隠れ蓑に使っていた慈善組合。主に、ポケモンの生活の場である森や湖などの自然を保護、管理している。アオギリが居なくなつた後は、クリアスが代表取締役になり、組合を纏めている。クリアスに変わった後は各地方からの信頼はもちろん、小さな町までもが彼らを信頼するようになり、ある種の大企業になりつつある。資金は主に寄付金であるが、組合が大きくなつたため、コーディネーター関係の商品を販売を始め、それも組合の資金になっている。組合委員は元アクア団が多く、クリアス同様に身よりの無い人たち

である。

『ワールド・リーグ』

2年に1度開かれる世界最強を決めるリーグの事。普通のジムと違い所は、ジムは一つの地方に纏まって居なく、様々な地方に点在している。それらのジムを十一カ月で制覇した者のみ为本戦に参加できる。ジムの戦いも、ジムリーダーによって様々であり、バトルの勝敗だけではないのも特徴である。また、ジムリーダーが変わる度、ジムの場所も変わる。リーグ参加者には具体的な場所は教えなく、場所のヒントのみを教えるのみである。チャンピオンは今現在はシロナである。しかし、本当はその席はクロノが居るはずだったが、クロノが辞退したため変わりのシロナが座っている。

大会本戦は、通常通りのトーナメント戦であるが、細かいところが違う。

リーグ参加資格は、前年度どこの地方でも構わないのでその年のリーグでベスト20位に入賞している事。つまり80人のみしかチャレンジできない。

『trainer license gear』
トレーナーライセンスギア

この世界での一般的な身分証明書。トレーナーになつた時にくれる小さな電子機器。形状としては、折り畳み式の電子手帳くらいの大きさで、本のように開く。画面は空中に光学表示され、操作は右はタッチパネル式、左は数個のボタンがある。出来る事はネット通信、自身のトレーナーランクの確認、ポケモンの応急処置の方法の検索、ポケモンのメデイカルチェック機能など。さらにポケモン図鑑的な使い方も可能。ちなみにポケギアと混合しないように一般的に『TLG』『免許書』などと呼ばれている。

『トレーナーランク』

トレーナーの強さを現るランク。『トレーナー』のジム戦に大きく関わるもので、『コーディネーター』などには関係ない。あくまで『トレーナー』のみの与えられるランク。ランクは1〜8までであるが、地方を移動したら、リセットされるがまた、元の地方に戻れば元に戻る。ワールドリーグに一度でも挑戦すると『world』と表示される。さらにチャンピオンを倒しリーグ全制覇すると『ワールドオブワールド』の称号と共に『world of master』と表示されるようになる。今現在、この称号を持つのはシロナ、ワタル、ダイゴ、クロノの4人のみ。

『ワールドオブワールド』

ワールドリーグを制覇した者に送られる最高の名誉。証としてバッチを贈呈される。形状は盾のような形状に32の色違いの玉が埋め込まれている。この形状になったのは『白と黒の想い』以降のデザインである。以前のデザインはモンスターボールに羽が生えているだけの黄金のバッチである。新デザインのバッチの32の玉は伝説のポケモンをイメージしている。

『Nomind』ノーマインド

この世界のプルト達、ギンガ団ロケット団が作り上げたクローンポケモン。ミュウツーをベースにして生み出された為、見た目もどことなくミュウツーに似ているが、能力は遥かに劣っている。また、言語や考える思考なども持ち合わせていないため、命令を聞きそれを実行する程度の事しかできない。

技も、劣化番サイコネシスと威力の落ちた金縛り程度しか使えない代わりに、驚異的な再生力と圧倒的な数で攻め入る事に関しては他の追隨を許さない。(弱点である頭部を破壊しない限り何度でも再生する)

『Legend・Minnid』レジェンドマインド

Nomindの最終到達点。見た目は各伝説のポケモンにそっくりであり、能力もほぼ同等。技も同じものが使えるなど、Nomindとは比べ物にならないほど高性能なクローンポケモン。反面、各固有の弱点に対しての抵抗力はオリジナルより貧弱であり、弱点を受ければすぐにやられてしまう為、防衛面ではNomindと大差は無い。しかし、Nomindとは違い、ある程度の事を考える知力はあるが、焼け石に水程度。あまり当てにはならない。『白と黒の想い』以後は、ギンガ、ロケット団が壊滅したため、Nomind、legendmind共に生み出される事は無くなり、この技術は医療方面に役立てる事になった（主にクローン治療）

ここからは、TV版ポケモンとポケットモンスターspecialとの違いを少し

『ポケモン図鑑の意味』

TV版ポケモンでは主人公とヒロインのみが持っている便利アイテム。

ポケスペでは、主人公組が持つ重要アイテム。

しかし、『ポケモン白と黒の想い』では、『無くても問題ない。あれば少し便利』程度のアイテムです。オーキド博士、ウツキド博士、オダマキ博士、ナナカマド博士などの有名な博士の知り合いのトレ

「ナーの何人かはこれを所有しているが、誰も羨ましがらない。つか『TLG』があるから、本気必要ない。」

『物の単為』

TV版では、円表記が一瞬されています。白黒、裏黒、虹憧れも同様にお金の単位は円です。ただ、外国はポケドルです。

『ポケセンのシステム』

トレーナーの絶対必要な施設。TV版同様に宿泊施設も有り。ポケスぺのポケセンって宿泊施設あるのか？

今のところはこんなもんです。キャラ紹介同様に随時更新します。

一周年記念！人気投票結果発表！！（前書き）

本編を更新しないのに、番外編を更新とか
死ねば良いのに、俺・・・

一周年記念！人気投票結果発表！！

遅れましたが、この度執筆一周年を迎えました！！

アカネ「もう、一年か。これも、読者様のおかげだね。」

いやはや、全く。

では、さっそく人気投票の集計結果を。

あと、今回は一位が2人います

では、第4位からあゝ。

第4位！

メインヒロインの「アカネ・ササイ」！

アカネ「イエイイ！」

まあ、前回より順位は落ちたけど、なんとかベスト4には入賞しました。

主な理由は

・一途なところが良い。

こんな、意見が出ました。

では、3位！

クロノ父こと「ケルア・ウィールアス」！！

ケルア「うむ。投票、ありがたく頂戴しました。」

投票理由としては

- ・親父サイコー！
- ・冷たく見えて、本心は温厚なところが良い。

などです。どうやら、父親としてケルアは大人気みたいですね。

ではさくさくと。

続いて2位

クロノの親友！「クリアス・キャスパニア」！！

クリアス「ご投票感謝いたします。」

主な投票理由は

- ・クロノに対しての信頼関係が美しい。
- ・クリアスメインの話が見たい
- などなど。

そして、最後の第一位！！

ジャカジャカジャカ（ドラムロール的な何か）

主人公・クロノウィールアス&おっさんこと星！！

クロノ「二冠達成!!」

星「まさか、一位になるとはねえ。読者は分かってらっしゃる!」

二人の主な投票理由が

クロノ

- ・成長する様子に心打たれた
- ・人間性が一番成長した人物
- ・弟にしてください!

星

- ・不思議系と思いきやなんでも知っている意外性。
- ・ケルアにない大人の風格がある。
- ・元ネタのキャラ共々好きです

ですね。

クロノ「弟か……。」

星「お?青年。まさか投票してくれた人が女性なら、良いかなとか
つて考えたつしよ?」

クロノ「ノノちよ!考えてねーし!!」

アカネ「……顔赤い。」

クリアス「主よ……。」

クロノ「い、いや違うぞ！断じて違うからな！！」

アカネ「クロノの馬鹿ーーーー！！！」

ああ、ちょいちょい。投票してくれたのは、男性だから……。つて誰も聞いてないか。

では、続いて

読者様が選ぶ話に移ります

一番投票数が多かったのは

第64話「思い出の歌〜異界の者の旅の終わり〜」
でした。

理由は

・クロノの表裏が一番見えていた
が一番多かったです。

では、今回の人気投票の結果元に、ランクインしたメンバーのサブストーリーを細々と投票致します。

読者皆様により一層満足していただける内容になるように、私の頑張って執筆していきますので、なにとぞ今後の御愛読よろしくお願
いします。

一周年記念！人気投票結果発表！！（後書き）

ようやく一周年。今後も頑張っ て行きます

番外編・花嫁の悩み（前書き）

お久しぶりです。

今回は、本編ではなく、前回の人気投票ベスト4のキャラの番外編を書きました。

本編ほったらかしでいいのか俺？

い出していた。

木の上から、食事中のクロノを観察し、罪悪感を感じながらもクロノと接触し、監視し利用しようとした。

そんな自分が、クロノの横に立つ事が本当に許されるのか？

自分は、叩けば埃が出る身。大企業の一人息子の花嫁に相応しいのか？

そう考えると、たちまち不安になった。

「はぁ……」

再びため息を漏らすアカネ。

そんな時だった。

鼻に薫る仄かに香る花の香り。

このテラスには花は活けていない。ここから見える中庭の中にもここまで強い匂いの花は無い。

「……でしゅ、……」

アカネの足元から聞こえる声。
そこに視線を送るアカネ。

彼女の足元に居たのは、シエイミだった。
世界に『感謝』する心を教えたと言われている伝説のポケモンの一
体だ。

「こんばんわシエイミ。どうしたのこんな時間に？」

屈みシエイミを見るアカネ。

「ミ！みんなの代表としてお前たちの結婚を祝いに来たでしゅ。」

「ふふ……。ありがとう。」

笑みをこぼし、シエイミを撫でるアカネ。

そして、シエイミの後ろのはグラシデアの花で出来た花束か置かれていた。

「ところで、お前は何を悩んでいたんでしゅか？もう少して結婚式
でしゅよね？」

「うん……。ちよつとね……。」

笑みが消えるアカネ。

「はあ……。」

そして、またため息をひとつ。
そんなアカネを見るシエイミ。

「……大方、自分がクロノの横に居ていいのか、って悩んで
いたでしゅね？」

「!?!」

驚くアカネ。

「やっぱりでしゅか。．．．はあ、どうして2人は変に考えるでしゅかね。」

「．．．．．ねえ、シエイミ。私どうすればいいのかな？」

思わず、シエイミに問うアカネ。

「．．．．．感謝ってなんでしゅると思いましゅか？」

「へ？」

シエイミの質問に戸惑うアカネ。

「相手に『ありがとう』って気持ちを伝えるためにあるんでしゅよ。その心に正直になれば、アカネが何をすべきかは自ずと分かってくるとおもいましゅ。」

そう言うシエイミ。

「ありがとう、か。．．．．．うん、ありがとう。シエイミ。なんだか分かって来た気がする。」

「それでしゅか。そう、言ってもらおうとミィも嬉しいでしゅ。じゃミィはこれで帰るでしゅ。」

「うん。……ありがとうシエイミ。」

そう言い、テラスから姿を消すシエイミ。

そして、部屋に響くノックの音。

「アカネ、入るぞ？……ん？どうした、その花？」

部屋に入るクロノの姿。そして、アカネの手に有るグラシデアの花束を見る。

「ん？まあ、私たちの結婚を祝ってくれている人達から、かな？」

「なんだそれ？」

「クロノ。……ありがとう。」

「ん？なんだよ急に？」

「ふふふ……。なんでもなあ〜い。」

そう言い、花束を手に部屋を出るアカネ。

それに着いていくクロノ。

部屋の電気が消え、月明かりが部屋に差し込む。
部屋に残されたウェディングドレスの胸に刺さる、優しい赤い色の花。

純白のドレスに映える感謝の花が、月明かりを得て、ドレスを纏う
花嫁を祝福していた。

番外編・花嫁の悩み（後書き）

いかがでしたか？今回の話は結婚前のアカネの心境にスポットを当ててみました。

次は、ケルア辺りを書いてみようと思います

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0333h/>

ぼけもん～白と黒って混ぜたら灰色？～

2010年11月10日22時55分発行